

○ 全員悉起立

○ 議長 全會一致ナルニ依リ本按ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

罰則

第二十七條 凡船舶點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リ若ク

ハ適法ノ燈籠及信號器ヲ所持セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ

罰金ニ處ス

但甲板ナキ漁船及甲板ナキ小船ハ此限ニアラス

○ 十五番 柴原和 本案新ニ第二十八條ヲ追加セシ所以ノ辯明ハ大略之

ヲ二十五番ニ聞クト雖<sub>レ</sub>尙ホ質疑ヲ要スル所アリ蓋シ此質疑ハ同  
條ヲ議スルノ時ニ於テ爲スヘキニ似タレトモ其答辯ニ依リテ第二

十七條ニ修正ヲ加ヘント欲スルモフアレハナリ原來第二十八條ノ  
旨趣ハ副則第六條ト同一致ニシテ第二布告按ニ「橋燈及舷燈ハ農商  
務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス  
者ハ云々」トノ明文アル以上ハ更ニ本條ヲ加フルニ及ハサルニ似タ  
リ内閣蓋シ此ニ見ル所アルカ之ヲ掲ケサリキ然ルニ本按ニハ之ヲ  
載スルノミナラス剩ヘ適法ノ舶來品ハ此限ニアラストノ但書ヲ付  
セリ此但書ノ如クシハ獨リ舶來品ノミ適法ノモノハ之ヲ用フルヲ  
得テ本邦ノ製造品ハ其適法ト否トヲ問ハス全ク用フルヲ得サルカ  
如シ看ヨ今日ハ毎ニ輸入ノ輸出ニ超加スルヲ憂フルノ秋ナリ愛國  
ノ衷情ヨリ之ヲ論スルモ本邦ノ製造品ノミ適法ノモノハ之ヲ允シ  
舶來品ハ勉メテ之ヲ却クヘキナリ然ルニ本按ハ之ニ反ス是レ本官

ノ解セサル所ナリ且已ニ第二十七條ニ燈籠ノ裝置ヲ過リ若クハ適法ノ燈籠云々ト適法ノ二字アレハ第二十八條ハ愈追加ヲ要セサルニ似タリ敢テ之カ明解ヲ乞フ由ニ國賦スルニ要セザル

○十一番渡邊 本官モ修正委員フ一人ナレハ爰ニ十五番ノ質疑ニ應セン今回新ニ第二十八條ヲ追加シタルハ第二布告按ニ對スルカ爲メナリ既ニ同案ニ檣燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處スト明示シ而シテ該犯則者ヨリ檣燈等ヲ購求シタル者ヲ罰スルコトヲ云ハサルハ是レ刑ノ權衡ヲ失フニアラスヤ又但書ニ適法ノ舶來品ハ此限ニアラスト掲ケル所以ハ例セハ外國ヨリ船舶ヲ購求スルヤ檣燈及舷燈ノ如キハ毎ニ之ニ附屬シ加之其製造本邦ノ製ニ

比スレハ皆精良ナルヲ以テ適法ノモノハ之ヲ用フルヲ許セシカ爲メナリ蓋シ吾人特ニ檣燈及舷燈ニ限リ舶來品ヲ購求スル如キノ時勢ナリセハ此但書ハ固ヨリ冗贅ナリト雖モ之ヲ現況ニ參スルニ瀛船ハ勿論帆前船ノ如キモ多クハ舶來品ヲ使用セサルヲ得サルノ秋ナレハ本按ヲ發表スルモ實際止ムヲ得サルコナリ十五番夫レ深ク此ニ注意アレ

○二十七番玉乃 世履 本官亦第二十七八兩條ニ牽連シテ質疑ヲ爲ントス  
第二十七條ニ所謂適法トハ其意義如何ゾヤ或ハ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠ト云フ如キ其製法ノ適不適ヲ云フニ在ルカ本官ヲ以テ之ヲ見レハ假ヒ其製法ハ規則ニ適スルモ官許ヲ得サル者ノ造リタル品ハ皆不適法ト云ハサルヘカラス然ルニ第二

十八條ニ但書ニ適法ノ舶來品ハ此限ニアラストアレハ官許ヲ得サル製造人ノ造リタルモノモ製法ニ適スレハ之ヲ許スアルカ如シ適法ノ意義果シテ如何

○十二番渡邊ニ二十七番ノ質疑ニ答ヘン適法トハ官許ヲ得タル製造人ノ製造セルモノニシテ其製法十三年第三十五號布告ニ適スルモノヲ云フ蓋シ第二十七條ハ前ニ所謂適法ノ燈籠及信號器ヲ所持セ

サル者ヲ罰スルノ法ニシテ第二十八條ハ燈籠等ノ製作法ハ能ク規則ニ適スルモ官許ヲ得サル製造人ノ造品ヲ使用セシ者ヲ處スルノ法ナレハ之ヲ第二十七條ニ比スレハ稍宥恕スヘキモノナリ又適法ノ舶來品ト云ヘル適法ノ字意モ第二十七條ニ載スル所ト殊異アルニアラス以此但書ヲ付シタル所以ハ過刻モ陳述セシ如ク外國ヨリ

○船舶ヲ購求セハ舷燈ノ如キハ毎ニ之ニ屬スルニ依テナリ但舶來品ト雖モ我十三年第三十五號布告ニ適スルモノト否ラサルモノトアルヲ以テ不適當ノ者ハ之ヲ使用スルヲ許サス故ニ適法ノ文字ヲ掲

ルモ敢テ支障ナキヲ信スルナリ

○二十七番玉乃十一番ノ答辨ハ只處分上ニ涉リ本官質疑ノ外ニ出タル者多シ本官ハ惟適法ノ意義奈何ヲ問フスニ若シ適法ノ意義ハ

二十七八兩條共ニ殊異ナシトセハ二十八條ノ但書ニ所謂適法ノ舶來品トハ外國人モ我農商務省ノ許可ヲ得テ之ヲ造リタルモノヲ云

○フカ再渡邊ヒ之カ明解ヲ乞フ

○十一番昇ニ二十七番質疑ノ要ハ專ラ適法ノ舶來品ト云フ所ニア

云フ故ニ法律ノ法トハ同シカラズ外國人ハ決シテ我農商務省ノ許

○可ヲ得ヘキニ非サルナリ

○十番水本 成美本官モ亦適法ノ文字ニ就キ第二十七八兩條ニ牽連シテ

意見アリ夫第三十七條ハ燈籠及信號器ヲ所持セサル如キ場合ヲ

云ヒ第二十八條ハ欄燈等ハ所持スルモ官許ヲ得タル製造人ノ造リ

タルモノニ非サル時ヲ云フモノナレハ修正委員ニ於テモ既ニ前後

○罰ニ輕重ノ差等ヲ付セリ此等ハ固ヨリ修正ノ理由ナレト

モ獨リ怪シム第二十七條中燈籠ノ上ニ適法ノ三字アルヲ是レ蓋シ

二十七番等ノ質疑アル所以ナラン而ルニ此三字タル毫モ此ニ有用

ノ文字ニ非ス所謂蛇足ノミ故ニ本官ハ適法ノ三字ヲ削除セント

ス幸ニ賛成者ヲ得テ問題トナランコト望ム

○十七番安場 保和賛成

○二十一番神田 孝平賛成ス本條ニ適法ノ三字アルニ依リ第二十八條

ト混同シ且之カ爲メニ全ク燈籠及信號器ヲ所持セサル者ノ處罰法

ヲ缺クカ如キノ嫌ヒアレハナリ

○議長 十番ハ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十三番山口 尚芳本官ハ十番ノ修正并ニ本按ニモ同意スルヲ能ハス

蓋シ二者共ニ法律ノ精神ヲ失スルニ依テナリ意ヲ注イテ閱讀セヨ第

二十七條ノ前段ニ所謂點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過ル如

キハ過誤ナリ懈怠ナレ此等ハ睡眠若クハ波濤風雨等ノ爲メニ遇マ

規則ニ觸ルモノナリ而シテ其末段ナル燈籠及信號器ヲ所持セサル

者ハ是レ故意ニ規則ヲ犯ス者ナリ然ルニ本按ハ甲乙同シク一條中

ニ列記シテ其罰亦差等ナシ是レ權衡ヲ失スルニ非ラスシテ何ソヤ  
 茲ニ過テ人ヲ殺ス者アラシニ法官之ヲ故意ニ人ヲ殺スモノト同一  
 ノ刑ニ處セハ各位ハ之ヲ當ヲ得タリトスルカ夫レ本規則ハ我同盟  
 各國ニモ關係ヲ有スルモノナレハ異日外國人此法ヲ見ルアラハ必  
 ス云シ日本ニハ法律ノ眞理ヲ解スルノ人ナシト故ニ本官ハ現問題  
 ○ノ消滅ヲ待テ修正説ヲ提出セントス豫メ其文ヲ陳レハ即チ凡船舶  
 合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金  
 ニ處シ若シ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過ル者ハ壹圓以上  
 拾五圓以下ノ罰金ニ處ス是レナリ此ノ如クシテ始メテ有心故造ト  
 ○過誤失錯ト輕重ノ罰ヲ區別スト云フヘシ又本條ノ但書ハ此ニ揭ケ  
 ○サルヲ可トス是レ蓋シ本則第十第十一兩條ト干格ヲ生スルノ嫌ヒ

○アレハナリ

○十番水本 成美 三十三番ノ駁議ニ對シテ此ニ一言セシ三十三番ハ十番  
 ノ修正説ハ有心故造ト過誤失錯トノ罪ヲ同一視シ法律ノ精神ヲ失  
 スト論スレトモ此説タル或ハ備テ以テ三十三番ニ呈スヘシ夫レ刑

法ニ在テハ有心故造ト過誤失錯トノ罪ヲ分別スルハ固ヨリ當然ナ  
 ○レトモ通常罰則ハ之ニ同シカラズシテ每キ其分別大キヲ法トス夫  
 ノ鐵道規則郵便規則電信規則ノ如キ皆然ラサルハナシ今日ノ修正  
 ○モ亦其例ニ依レリ三十三番或ハ刑法ト罰則トヲ混同視シタルニ非

○十五番柴原 和 本官ハ第二十八條ノ但書ヲ刪ルヲ修正説ヲ有スルヲ  
 以テ目下ノ問題ニ同意スル能ハサルナリ又三十三番ノ修正説アレ

トモ燈籠ヲ所持シテ且點燈ヲ怠ル者ト之ヲ所持セサル者トハ其罰  
○サ同ウシテ取テ不可ナシトス然レトモ但書削除ノ説ニ至テハ本官  
亦其意見ヲ同ウス而シテ三十三番ノ修正説ハ前後關係ヲ有スルニ  
非サルヲ以テ若シ議場ニ現出セバ二箇ニ分別シテ決ヲ取ラレントモ  
ヲ望ム因テ豫シメ此ニ建議ス

○議長 十五番ニ告ク三十三番ノ説ハ第二十七條ノ全體ニ關スルヲ  
修正ニシテ且現問題ノ消滅ヲ待テ提出セント云フニ在レハ十五番  
ニ於テ但書ノミ修正セント欲セハ宜シク本議ノ未決ニ先テ例ニ依  
リ其意ヲ豫陳シ之カ議決ヲ待テ更ニ其修正説ヲ提出シテ可ナラン  
○本席ニテ三十三番ノ説ヲ二分スルハ行フヘカヲサルナリ  
○十五番 柴原 領諾セリ即チ本條但書ハ不可ナルヲ以テ本議ノ決ス

ルヲ待チ之カ修正説ヲ提出スヘシ  
○外一 番 周布 公平 「適法」ノ三字ヲ削ルハ目下ノ問題ニシテ且其取決モ  
近キニ又「サ」ト思惟スルヲ以テ此ニ本員ノ所見ヲ陳ヘン夫レ此三  
字ハ内閣下付ノ原按ニモ之アリ極メテ有用的ノモノニシテ若シ之  
ヲ除去セハ不合格ノ信號器或ハ破隕セル燈籠ヲ有スル者モ皆本條  
ノ罰ヲ免レテ次條ノ輕罰ヲ受ルニ止マルヘシ故ニ本員ハ之ヲ存ス  
ルヲ可トス

○十一番 渡邊 三十三番並ニ十五番ノ修正説アリ皆未タ問題トハナ  
ラサレモ本官修正委員ノ職トシテ本條ノ動カス可ヲサル所以ヲ辯  
セサルヘカヲ抑本官等本案調査ノ時ニ方リ恰モ三十三番ノ如キ  
論説ヲ出スモノアリシモ亦十番ノ如キ駁議アリテ終ニ否ト決セリ

原來本按ハ海上衝突ノ患害ヲ防クヲ以テ精神ト爲ス假ヒ有心故造  
 ニシテ燈籠ヲ所持セサル者アルモ爲メニ他船ニ損害ヲ及ボサ、レ  
 ハ是レ唯過誤ニシテ右ニ掲クヘキ燈籠ヲ左ニ掲ケ他ニ損害ヲ蒙ラ  
 シメタル者ト比スレハ實際ニ於テハ反テ其罰ヲ輕減シテ可ナリ故  
 ニ有心故造モ其罰必ス重カルヘカラス過誤失錯モ其科必ス輕カル  
 ヘカラス是レ本按ニ貳圓以上貳拾圓以下トシテ執法者ニ斟酌ノ途  
 ヲ與ヘタル所以ナリ若シ二十三番ノ說ノ如ク初メヨリ此二者ノ間  
 ニ輕重ヲ付スヘシトセハ過誤ト怠慢ト亦輕重ノ別ナカルヘカラス  
 ルナリ又甲板ナキ漁船云々ノ但書ハ舊法ニ抵觸シ之カ爲メ罰ヲ免  
 ル者アルヘシトノ說アレトモ航路等ニ就テハ自カラ府縣廳ノ管  
 理規則アリ即チ十年第十三號ノ各府縣廳ヨリ布達スル所ノ條規ニ

違犯スル者ハ裁判官ニ於テ壹圓五拾錢以内ノ罰金ヲ科スヘシトノ  
 布告ニ間フモ可ナリトス此大官ニシテ衝突船限モ罰ナシ

○十番水本  
成美

内閣委員ハ「適法」ノ二字ヲ削レハ大ニ弊害ヲ生スヘシ  
 ト論ス之ヲ内閣下付ノ原按ニ付テ論スレハ則チ可ナリ本按ニ在テ  
 ハ之ヲ除去スルモ已ニ第二十八條ノ追加アルヲ以テ毫モ不可ナシ  
 然ルニ若シ委員ノ說ノ如クシハ合格ノ文字モ亦猶存セサルヘカラ  
 ス豈斯ノ如キ顧慮ヲ要センヤ

○三十三番山口  
尚芳

若シ十番ノ修正說ニ決セハ大ニ法律ノ體面ヲ汚ス  
 ヘシト思考スルニ依リ再ヒ其不可ヲ辯セン想フニ十番ハ本案ヲ以  
 テ鐵道規則電信規則等ト同一視セルカ是レ大ナル謬見ナリ何トナ  
 レハ彼等ノ規則中示ス所ノモノハ過料ニシテ損害ノ償還ニ止マリ

本按ノ如キ本院ノ議定ヲ經タル法律ニ違犯スル者ヲ罰スルノ類ニ  
 非サレハナリ故ニ昨十三年本規則改正ノ時ニ於テモ懈怠ノ責ナル  
 一條ヲ設ケテ特ニ船主船長ヨリ水火夫ニ至ル迄各其責ニ任スヘキ  
 ヲ示セリ蓋シ十番其說ノ如クシハ例ヘハ彼印紙貼用規則申十箇條  
 ノ罰則アリテ甲ノ罰金五錢乙ノ罰金五千圓トシテ各其犯則ノ種類  
 ニ依テ其差等ヲ立ルモノニ對シ皆之ヲ一條中ニ網羅シテ五錢以上  
 五千圓以下ノ罰金ニ處スト改作セント論スルモノ、如シ又十一番  
 ハ但書ヲ存スルモ各府縣廳ヨリ其治下ニ航路等ノ管理規則ヲ布達  
 スヘキヲ以テ之ニ違フ者ハ十年第十三號布告ニ依テ處罰スレハ毫  
 モ不可ナント論スレトモ地方官ニシテ海上衝突豫防規則ヲ措キ他  
 ニ適宜法ヲ制定シテ之ヲ頒布スルノ權アルコトナシ若シ果シテ十一

番ノ云フ如クシハ是レ我國法ヲ無スル者ナリ但書ヲ存スル豈可ナ  
 ランヤ

○三十番細川潤次郎適法ノ「三字ハ削ルモ削ラサルモ可ナリ何トナレ  
 ハ第二十八條ヲ削除センカ該字面ハ削ルヘカラス之ヲ存センカ該  
 字面ハ削ラサルヘカラサレハナリ故ニ本官ハ暫ラク之ヲ存スルモ  
 ノトシテ論センニ本案適法ノ燈籠及ヒ信號器ヲ所持セサル者ノ  
 ヲ末段ニ示シテ點燈及信號ヲ怠リ若クハ燈籠ノ裝置ヲ誤ル者ヲ前  
 段ニ掲ケタルハ其順序不妥ヲ覺フルヲ以テ之ヲ顛倒シテ凡船舶適  
 法ノ燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ  
 裝置ヲ過リタル者ハ云々ト修正スルヲ可トス又三十三番等ヨリ但  
 書削除ノ一說アルモ之ヲ廢シテ如何ナル文章ニ代ルヤ未タ其詳細



ヲ聽領セサルニ依リ今其可否ヲ斷スルヲ能ハヌ到底本案ハ外國人ニ關係ヲ有スルモノニシテ且此但書ノ如キモ實際ニ適スルヤ否ヤ一層綿密ニ考定セサルヘカラス加之本按ハ僅々一條中ニシテ既に此ノ如キ數種ノ修正說アリ次條モ亦類推スヘシ而シテ先ツ其一二ヲ舉ンニ未タ問題トハナラサレトモ第二十八條ニ農商務省ノ許可トアリ本官ノ聞ク所ニ據レハ是等ノ事務ハ特ニ商務局ノ關スル所ナリト云フ其レ然ラハ農商務省ノ四字モ亦改正セサルヘカラサルニ似タリ加之第二布告按ハ第一布告按ト併合スヘキヤ否ヤノ兩說アレハ本官ハ本案ヲ再ヒ前修正委員ニ付托シテ更ニ考訂スルヲ可トス因テ之ヲ建議ス

○二十七番 玉乃 世履 三十番ノ建議ニ同意ス

○二十番 箕作 麟祥 夫レ本案ハ十三年第三十五號布告ニ繼續スル所ノ罰則ナルハ論ヲ竣タサルナリ夫ノ第十四十五十六條等ニハ白晝ノ航法等ヲ明掲シ而シテ此ニ彼ニ違フ者ヲ罰スルコトヲ示サ、ルハ頗ル不備ナルニ似タリ仍テ三十番ノ建議ニ左袒シ再ヒ修正ニ付托スルヲ可トス

○十一番 渡邊 昇 三十番ノ建議ニ同意ス願クハ猶之ニ二名ノ委員ヲ加

ヘテ五名ト爲サンコトヲ

○三十番 細川 潤 次郎 本官ハ前ノ建議ニ決セハ先例ニ依リ更ニ修正委員

二名ヲ増加センコトヲ建議セント欲セシニ恰モ十一番ノ建議アリ此

ノ如キハ事ニ害ナキヲ以テ冀クハ本官ノ建議ト併セテ決ヲ取ラレ

ンコトヲ

○二十九番 本田親雄 三十番並十一番ニ同意ス

○三十七番 楠田英世 建議ヲ爲ス夫レ第二讀會ニ於テハ質問ヲ禁シ且一修正說アリ之レカ賛成者アラハ直チニ之ヲ問題ト爲シ他ニ修正說ヲ提出スルヲ許サ、ルハ本院ノ成規ナリ然ルニ本日ハ第二讀會ニシテ質問ヲ許シ且修正說ヲ鬪ハシ加之取決ニ方リ別段ノ建議等アリテ頗ル錯雜セルカ如シ仍テ本官ハ成規ニ依準シ先ツ現問題ノ決ヲ取り次ニ三十番建議ノ決ヲ取ラレンコヲ希望ス

○議長 第二讀會ニ於テ質問ヲ許サ、ルハ本院ノ成規ナレトモ時宜ニ由リ或ハ之ヲ許スコアリ況ンヤ本日ノ如キハ更ニ修正按ヲ以テ問題ト爲セシモノナレハ慣例ニ從ヒ之ヲ默許セリ又從前ハ一修正說ヲ提出スル者アラハ他ノ議官ハ同條中他ノ修正ヲ發スルヲ得サ

ル如キ類例アリシモ讀會規則ノ精神ハ否ラス例ヒ一條中ト雖モ他ニ修正ヲ欲スル者ハ現問題ノ取決ニ先チ其意ヲ開陳シ決議ヲ待テ更ニ其修正說ヲ提出スルヲ許スニ在リ仍テ本日ハ之ニ準依セリ敢テ變體ノ議法ニ非サルナリ

○三十七番 楠田英世 本官ハ敢テ議長ノ處分ヲ不當ナリト爲スニ非ス十番ノ修正說ハ賛成者ヲ得テ既ニ問題トナレリ然ルニ其取決ニ先チ三十番建議ノ決ヲ取レハ修正說ノ暗々裡ニ消滅センコヲ惜ミテ前說ヲ爲セシノミ敢テ強ルニ非サルナリ

○議長 三十番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者二十一人

○議長 多數ナルニ依リ三十番ノ建議ニ決シ前修正委員即チ十一番

○渡邊二十五番 大久保一翁 二十九番 本田ノ三名ニ 二十番 美作麟祥 二十七番 玉

○世ノ二名ヲ加ヘテ本案全部付托再修正委員ト爲ス其修正報告ヲ待

○テ開會セシ散會スヘシ同意者ハ四五人ニシテ

○午後零時十一分開場ニ非セ

○三十番 藤田 氏ハ五番ノ部ニ附シテ

○番ノ部ニ附シテ

○三十番 藤田 本旨ハ意ヲ違フニ非ス

○其部五番ニ出スルニ非ス

○其部五番ニ出スルニ非ス

○其部五番ニ出スルニ非ス

元老院會議筆記明治十四年四月廿五日

○第二百三十七號議案 海上衝突豫防規則ニ追加シ同副則ヲ廢止

造方 第二讀會 四月十八日ノ續第二百四十號及第

議長 東久世通禧 代理

出席議員

一番番 伊集院兼寛

二番番 大給 勇恒

三番番 伊丹 重賢

四番番 河田 景與

六番番 河瀬 眞孝

九番番 鶴田 皓

十番 水本 成美

十一番 渡邊 昇

十二番 海江田信義

十五番 柴原 重和

十七番 安場 保和

二十番 箕作 麟祥

出高 齋官 廿一番 神田 孝平

廿二番 津田 眞道

廿三番 林 友幸

廿四番 岩村 通俊

廿五番 大久保一翁

○ 齋官 齋官 廿六番 渡邊 驥

廿七番 玉乃 世履

廿八番 中村 弘毅

卅九番 親雄 誠

三十番 細川潤次郎

卅一番 榎村 正直

卅二番 山口 尚芳

卅三番 黒田 清綱

卅四番 楠田 英世

卅五番 隆謨

○ 齋官 齋官 卅六番 内閣委員

卅七番 太政官少書記官周布公平

卅八番

卅九番

四十番

四十一番

四十二番

四十三番

○議長 第二百三十七號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク茲ニ修正案ト再  
修正案ト二箇アリ依テ孰レヲ以テ今日ノ問題ト爲スヘキヤヲ決セ  
ン即チ再修正案ヲ問題ト爲スニ同意者ハ起立スヘシ英列  
起立者廿七人

○議長 多數ナルニ依リ再修正案ヲ以テ問題ト爲ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

布告案

明治十三年七月第三拾五號布告海上衝突豫防規則左ノ通追加候條此  
官布告候事

但明治九年二月第拾壹號布告廢止候事

○議長 發議ナキニ依リ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ本案ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

罰則

第二十七條 凡船舶點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リ若ク  
ハ燈籠及信號器ヲ所持セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ

處ス

但甲板大キ漁船及甲板ナキ小船ハ此限ニアラス

○十番 水本成美 本條ハ前會ニ於テ本官カ提出セシ修正說ノ如ク適法ノ

三字ヲ除去セリ賢明ナル五名ノ修正委員ニシテ斯ノ如ク報告アリ  
タル上ハ既ニ動カスヘカラサルニ似タレトモ虚心平氣以テ之ヲ臧

否ヲ熟考スルニ尙ホ所謂白璧ノ微瑕ナキ能ハス即チ前會ニ於テ三  
 十番ノ陳述セシ如ク燈籠及信號器ヲ所持セサル者ヲ後ニシ點燈及  
 信號ヲ怠ル者等ヲ先ニ掲載スル是レナリ蓋シ内閣下附ノ原案ニ在  
 テハ罰金ノ差等アルニ依リ此ノ如ク掲載スルモ敢テ不可ナシト雖  
 モ今之ヲ修正シテ過誤怠慢ト有心故造トノ罪ヲ同一ニ列記スルニ  
 於テハ其重キモノヲ先ニシ其輕キモノヲ後ニセサレハ律文ノ體裁  
 不妥ナルヲ覺フ仍テ茲ニ同官ノ說ヲ資テ本案ヲ修正シ凡船舶燈籠  
 及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ若クハ燈籠ノ裝置ヲ  
 過ル者ハ云々ト爲スヲ可トス是レ或ハ墮ヲ得テ獨ヲ望ム者ニ類ス  
 ト雖モ本案ノ愈備ハラントヲ欲セハ此ノ如クセサルヘカラス幸ニ  
 賛成者ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ希望ス

○廿二番 津田 眞道 賛成

○議長 十番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○廿七番 玉乃 世履 本官ハ目下ノ問題ヲ不道理ナリトスルニアラサレト

モ甲ヲ先ニシ乙ヲ後ニスルモ乙ヲ先ニシ甲ヲ後ニスルモ其結果ハ  
 兩者同シク貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ナレハ之ヲ要スルニ此修正  
 タル惟甲乙字句ノ顛倒ニ過キサルノミ且論者ハ燈籠及信號器ヲ所  
 持セサル者ハ皆有心故造ノ罪ノ如ク說クト雖モ誤テ所有セサルコ  
 モ亦ナキニ非ス既ニ修正委員中ニモ恰モ現問題ノ如キ論說アリタ  
 レトモ到底本案ハ海上衝突ノ豫防ニ供スルノ法律ニシテ燈籠及信  
 號器ヲ所持セシムルヲ以テ通則ト爲スニ在レハ吾人之ニ背戻スル  
 ハ其最モ稀有ノモノユヘ夫ノ新刑法ニ於テ一條中前ニ竊盜ノ事ヲ

云レ後ニ強盜ノ項ヲ示スト同シク強テ罪ノ重キモノヲ先ニシ其輕  
 キモノヲ後ニ掲載スルヲ要セサルヘシト議決セリ是レ即チ本官カ  
 現問題ヲ不道理ナリトセサルモ之ニ左袒スル能ハサル所以ナリ  
 ○十一番 渡邊 廿七番ノ説明ニテ本案ノ修正ヲ要セサル理由ハ既ニ  
 明晰ナリト雖モ本官モ修正委員ノ一人ナルヲ以テ此ニ一言セン十  
 番ノ修正説ハ音ニ事實ニ於テ益ナキノミナラス文字上ニ於テモ亦  
 効力ナカルヘシ何トナレハ有心故造ニテ燈籠及信號器ヲ所持セサ  
 ル者ト雖モ他ニ損害ヲ及ボサルニ先チ迅ク發露シタルモノト之  
 ○サ所持スルモ其用ヲ失ヒタルカ爲メ遂ニ他ニ損害ヲ被ラシメタル  
 ○者ト比スレハ其罰反テ輕ウシテ可ナルニ似タリ其他斯ノ如キ類  
 ○例千百限リナク到底裁判ヲ經ルニ非サレハ罪ノ輕重ハ分明ナラサ

ルニ依リ本案ニハ貳圓以上貳拾圓以下ト罰金ノ範圍ヲ廣ウセリ否  
 ラサレハ點燈及信號ヲ怠ル者ハ何圓燈籠ノ裝置ヲ過ル者ハ何圓燈  
 籠及信號器ヲ所持セサル者ハ何圓ト各其類ニ依テ其罰ヲ殊ニセサ  
 ルヘカラサルナリ故ニ本官ハ必スシモ修正ヲ要セストス  
 ○十番 水本 成美 本官ノ説ニ對シ廿七番並ニ十一番ノ駁撃アリ夫レ本官  
 ノ説タル素ヨリ字句ノ顛倒ニ止マルコナレハ強テ抗論スルヲ須ヒ  
 スト雖モ十一番ノ修正案ヲ主持シテ裁判ヲ經サレハ罪ノ輕重ヲ判  
 定スル能ハサルニ依リ始メヨリ何レヲ先ニシ何レヲ後ニスヘシト  
 定ムヘキニ非スト論スルカ如キニ至テハ本官一議ナキ能ハヌ蓋シ  
 裁判ヲ經サレハ罪ノ輕重ヲ定ムヘカラサルハ謀故殺ナリ過誤殺傷  
 ナリ賭博ナリ皆然ラサルハナシ何ソ獨リ本案ノミナラシヤ然レモ

法ヲ立ルニ於テハ其輕重ヲ付シ其順序ヲ定ムヘカラサルノ理ナシ  
 夫レ刑法ハ以テ罪人ヲ待ツノ具ニシテ未タ罪人アラサルニ先チ之  
 ヲ作リテ預メ之ニ供フルモノナリ罪人アリテ而シテ後チ初メテ之  
 ヲ草スヘキモノニ非サルナリ故ニ之ヲ揭示スルニ於テハ隨テ其順  
 序ナカルヘカラス即チ本官ハ之カ順序ヲ正ウセント欲スルニ在ル  
 ナリ

○三十番 細川潤次郎 十番ノ修正說ハ前會ニ於テ本官ノ端緒ヲ開キタル  
 モノト略同一致ニシテ惟殊ナル所ハ十番ハ若クハ點燈及信號ヲ忘  
 リ若クハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者云々ト即チ若クハノ字ヲ重複ス  
 ルニアリテ本官ノ前說ハ全ク原文ヲ採リ若クハ點燈及信號ヲ忘リ  
 又ハ燈籠ノ裝置云々ト爲スニ在ルノミ究竟此問題タル字句ヲ顛倒

スルニ過キサレハ本官モ熱心之ヲ論スルヲ欲セサレトモ其順序ノ  
 正ト不正トヲ議スルニ於テハ寧ロ現問題ヲ優レリトス蓋シ尋常談  
 話ニモ先ツ事ノ有無ヲ問ヒ而シテ後チ其結果ヲ問フヲ恒ト爲ス即  
 チ燈籠等ヲ所持スルヤ否ヤハ主ニシテ之ヲ所持シテ怠ル等ハ其從  
 ナレハ本官ハ之ヲ文章ニ掲クルニ於テモ先ツ其主ヲ先ニシ其從ヲ  
 後ニスルヲ宜シトスルナリ

○廿三番 林友幸 本官ハ本條ニ「適法ノ」三字ヲ恢復シテ第廿八條ヲ削  
 除スルノ說アレハ現問題ノ消滅ヲ俟テ之ヲ呈出セントス即チ例ニ  
 依リ此ニ豫陳ス

○十番 水本成美 本官カ今日ノ修正說ハ既ニ陳述セシ如ク三十番ノ前說  
 ヲ資テ之ヲ提出シタルニ在リ然ルニ目下三十番ノ說ヲ聞クニ文中



聊虚字ノ違ヒアリ決議ノ際此等ノ事ニテ同意者ヲ得ル少ナカラシ  
トヲ恐ル、ニ依リ本官ハ更ニ信號ヲ忘リノ下若クハ「フ」字ヲ退ケ之  
ニ代フルニ又ハノ二字ヲ以テセントス各位之ヲ領セヨ

○二十番 辨作 本官ハ修正委員ノ一人ニシテ既ニ委員會ノ時ニ於テ

恰モ現問題ト同一ナル説ヲ呈出シタルモ少數ナルニ依リテ消滅セ

リ故ニ此問題ノ出ル以上ハ左袒セサルヲ得ス敢テ請フ反覆表裏ト

爲スナカラシコトヲ文章ニ示シテ其旨ヲ明カニシテ其旨ヲ

○三十番 細川潤次郎 本官ハ字句ノ顛倒ニ係リテハ他ニ異見ナキモ原案

「適法」ノ「三」字ノ存廢ニ關シテハ前會ニ於テモ陳述セシ如ク第廿八

條ト連帶シテ論スルニ非サレハ其臧否ヲ決シ難シトス目下廿三番

カ此三字ヲ復シテ第廿八條ヲ削除スルノ説ハ未タ其詳カナルヲ聞

カサレトモ本官モ亦同一ナル考案アリ且既ニ前會ニ於テモ各位中

往々斯ノ如キ論説アリタルヲ以テ議事ノ整頓ヲ要スルカ爲メ適法

ノ「三」字ノ存廢如何ハ暫ク之ヲ措キ先ツ現問題ノ決ヲ取り次ニ第

廿八條ト連帶シ分別シテ其決ヲ取ルヲ可トス仍テ之ヲ建議スル

○十五番 柴原和 十番ノ修正説ハ大ニ其當ヲ得タルモノナレトモ措

ヘシ「適法」ノ「三」字ヲ除クニ在ルヲ以テ本官ハ之ニ左袒スル能ハサ

○リシカ今幸ニシテ三十番ノ建議アリ以テ本官カ持論ナル適法ノ

○三字ヲ存シテ第廿八條ヲ削ルノ説ヲ發スルノ時期ヲ得ヘキニ依リ

喜シテ之ニ同意スルニ決マシメテ其旨ヲ明カニシテ其旨ヲ

○三十三番 山口尚芳 本官亦本案ニ「適法」ノ「三」字ヲ存シテ第廿八條ヲ刪

除スルノ意見アリ仍テ三十番ノ建議ノ如ク之ヲ分別シテ決ヲ取ラ

レシコヲ欲ス  
○議長三十三番ニ問フ適法ノ、字ヲ除キ本條ノ決ヲ取テ該字面存廢  
ヲ決ハ後條ヲ議スル時ニ於テスルノ意ナルヤ

○三十番細川潤次郎然リ  
○廿二番津田真道三十三番ノ建議ハ特別中ニ最モ特別ナルモノナレトモ

議事整頓ノ爲メ大ニ便益アリト思考スルヲ以テ之ニ同意ス  
○二番大綱恒本官ハ三十三番ト大ニ其所見ヲ殊ニセシ同官ハ議事整頓

ヲ爲メ適法ノ、字ヲ措テ本條ノ決ヲ取ルヘシト云フト雖モ原來適  
法ノ字ハ修正委員ノ報告案及十番ノ修正說中ニモ見出サ、ル所ノ  
モノニシテ茲ニ其見出サ、ルモノニ對シ之カ存廢如何ヲ議スヘキ  
緣由ナシ是レ本院議事條例中ニ分別シテ云々ト指スモノトハ甚々

異同アリ故ニ本官ハ之ニ同意スルコ能ハサルナリ

○議長種々ノ建議アレトモ議會規則第五條ニ依リ分別シテ之カ決

ヲ取ルヘシ  
○三十番細川潤次郎老練ナルニ番議官ニシテ此說アルハ本官ノ私ニ怪

シム所ナリ必竟適法ノ字ヲ加フルノ說ハ第三讀會ニ於テモ提出ス  
ルヲ得ヘシト雖モ本官ハ只便宜法ヲ用ヒント欲セシノミ何トナレ

ハ該字面ナクシハ本官ハ勿論十五番三十三番等ニ於テモ十番ノ修  
正ニハ同意スルヲ得ス若シ之ニ可決セハ第廿八條ニ至リ竟ニ之ヲ

削除スルノ說ヲ爲ス能ハサルニ至ラン要スルニ本官ノ建議ハ議事  
ノ進捗ヲ望ムニ外ナラサルナリ

○十一番渡邊昇原來十番ノ修正說ハ適法ノ、三字ヲ削除スルヲ以テ

○眼目ト爲スニ在ルハ三十番等ニ於テ若シ之ヲ加ヘント欲セハ其取  
 決ニ當リ宜シク不同意ヲ表スヘシ目下三十番ノ建議ハ二番ノ論ス  
 如ク頗ル奇異ナルモトスニ至ルニ要スルニ本官ノ發言ハ難事  
 ○三十三番山口 本官ハ敢テ喋ヤリ辨ヲ要セス目下議長ノ宣告アリ  
 タル如ク分別シテ先ツ十番修正説ヲ決ヲ取ルヲ可トス仍テ更ニ之  
 ヲ建議ス  
 ○二番大給 夫レ案中朱點若クハ藍線ヲ以テ塗抹セシ箇所ハ素日ヨリ  
 今日ノ議案ニ非ス唯十番ハ此字句ヲ顛倒ヲ欲スルカ爲メノ修正ニ  
 過サルフニ故ニ其修正ト本案但書トヲ分別シテ決ヲ取ルカ如キハ  
 ○青テ議長ノ意見ニ任スヘシト雖モ三十番建議ノ如キハ議案及問題  
 外ノモノヲ採テ後條ト俱ニ決議ニ付スヘシト云フニ類ス是レ本官

カ不同意ヲ唱フル所以ナリ蓋シ十番ヲ修正説ニ決スルモ其不同意  
 ノ者ハ第三讀會ヲ俟テ更ニ修正ヲ提出シテ可ナリ何ソ必スシモ特  
 異ノ決議法ヲ須ヒンヤ唯願フ例規ニ依リ取決アラシコトヲ  
 ○廿七番玉乃 本官ハ二番ノ説理ニ於テ動カサルモノト思考ス何ト  
 ナレハ適法ノ一、二字ハ本日ノ議案中ニ之アルコトナシ且十番ノ修正  
 モ惟字句ヲ前後スルニ止マルヲ以テナリ然ルニ三十番ハ三字存廢  
 ノ取決ヲ措テ十番修正ノ決ヲ取ルヘシト云フハ何ソヤ夫ノ議場ニ  
 於テ問題ト稱スヘキモノハ二人以上ノ賛成ヲ得タル説ニ限ルハ各  
 位ノ知ル所ニシテ該字面ハ今日ニ在テ未タ議場ニ現出セサルニ非  
 スヤ既ニ現出セサルモノニシテ之ヲ措タト云フハ萬アルヘカラサ  
 ルノ理ナリ故ニ三十番等若シ之ヲ加ヘント欲セハ宜シク例ニ依リ

豫テ其主旨ヲ陳述シ現問題ノ決スルヲ俟テ更ニ修正ヲ提出スヘシ  
何ヲ苦ンテカスノ如キ變體ノ取決法ヲ須フルヲ要センヤ

○十番水本  
成美

本日開議ノ初メ再修正案ヲ以テ問題ト爲スヘキヤ否ヲ

決スルニ當リ各位モ起立シテ再修正案ニ同意ヲ表シタレハ本日ノ  
議案ニ適法ノ字ナキハ素ヨリ知ル所ナラン故ニ三十番建議ノ如キ

本官ニ於テモ亦異議ナキ能ハヌ又十一番ハ適法ノ字ヲ除クハ十番  
ノ大眼目ナリト論スレトモ前ニモ述ル如ク該字面ハ五名ノ委員ニ

○テ業已ニ除去セシモノナレハ本官ノ修正ハ固ヨリ之ニ關セサルノ

ミ

○議長 適法ノ、三字ヲ加ヘント欲スル者ハ本會若クハ第二讀會ニ

於テ別ニ其修正ヲ提出スヘシ仍テ茲ニ議事整頓ノ爲メ先ツ十番修

正ノ如ク凡船舶燈籠及信號器ヲ所持セス云々燈籠ノ裝置ヲ過リタ

○ル者ハ迄ノ決ヲ取ラン之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十七人

○議長 多數ナルニ依リ十番ヲ修正ニ決ス

○廿三番林友  
幸 本官ハ預テ陳述セシ如ク本案船舶ノ下適法ノ、三字

ヲ加ヘントス是レ第廿八條ヲ削除セント欲スルニ依テナリ蓋シ之  
ヲ除クモ毫モ支障ナクシテ之ヲ存スレハ却テ讀者ノ惑ヒヲ來タヌ

ノ恐レアレハナリ幸ニ賛成者ヲ得テ問題ト爲ランコヲ希望ス

○十五番柴原  
和 賛成ス本說タル第廿八條ト牽連スルヲ以テ連帶シテ

之ヲ論セン抑該條ハ向日委員中ニテ新ニ増加セシモノニシテ第二  
布告案ノ副法ノ如シト雖モ舷燈等ノ管理ハ第二布告案ニテ充分爲

スヲ得ヘク且前會ニモ論セシ如ク合格ノ舶來品ハ此限ニアラズト  
 シ一句アレハ舶來品ハ合格ナレハ之ヲ用フルヲ允シ本邦ノ製造品  
 ハ假令合格ナルモ得テ之ヲ許サズルカ如シ是ノ如キハ外國輸入ヲ  
 促スノ一具ニシテ本官カ曾テ之ヲ不權衡トシ第廿八條ヲ削除セン  
 トスル理由ナリ故ニ彼ヲ削レハ即チ第廿七條ニ適法ノ字ヲ掲ケサ  
 ルヘカラサルモノトス凡船船燈籠及信號器ヲ所持セス云々以下又ハ燈籠ノ  
 ○二十番 實作 麟祥 凡船船燈籠及信號器ヲ所持セス云々以下又ハ燈籠ノ  
 裝置ヲ過リタル者ハ迄ハ己ニ決シタルニ非スヤ然ルニ廿三番ハ既  
 決ノ點ニ向ツテ更ニ修正ヲ加ヘントス豈規則ヲ謬ルナキヲ得ンヤ  
 ○三十三番 山口 尙勞 本官ハ廿三番ニ同意ヲ表スルニ先チ此ニ一言セン  
 トス二十番ハ廿三番ノ修正ハ規則ニ背馳スルカ如ク論スト雖モ適

法ノ字ニ就テ意見アル者ハ別ニ其修正ヲ提出スヘシト己ニ議長ノ  
 宣告アリタルニ依リ廿三番ノ修正說ヲ提出セシハ敢テ妨ケナシト  
 ス茲ニ第廿八條ノ削除スヘキ理由ヲ陳述センニ本案ハ海上衝突ノ  
 豫防ヲ以テ目的ト爲スニ在レハ夫ノ檣燈及舷燈ノ如キハ何レニテ  
 モ本規則ニ合格ノモノナレハ則チ足ルヘシ然ルニ本案ハ洋人ノ作  
 リタルモノハ之ヲ允シ本邦ノ製品ハ例ヒ合格ナルモ農商務省ノ許  
 可ヲ得タル者ニ非サレハ之ヲ許サスト爲ス豈偏頗ノ法律ナラスヤ  
 況ヤ合格ノ舶來品ハ之ヲ許ストセハ支那印度人ノ作モ之ヲ許スニ  
 於テヲヤ故ニ本官ハ該條ヲ刪除シテ其管理ハ同省ノ權内ニ付スル  
 モ其物品ハ免許ヲ得サル者ノ製作セサルモノト雖モ合格ナレハ之  
 ヲ用フルヲ允シテ可ナリトス

○議長 廿三番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲シ時午ヲ過ルニ依リ午餐ノ爲メ一旦散會スヘシ

午後零時三分閉場

午後第一時五分開場

依病  
退席

十番

水本 成美

同

卅七番

楠田 英世

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○三十六番 黒田 清綱 現ニ問題タル二十三番ノ修正説ハ適法ノノ三字ヲ

加フルニ在リ然ルニ其加フヘキ位置ヲ聞カス思フニ是レ燈籠ノ上ナルヘシ果シテ然ルヤ否發議者ノ明解ヲ乞フ

○二十三番 林友 幸 修正委員ノ報告按ニハ適法ノ字ナキモ内閣下附原

按ニハ之レ有リ本官思フニ其無キハ不可ナリトス然ルニ退テ熟考

スレハ「適法」ヲ合格トスル尙更ニ可ナルカ如シ依テ改メテ之ヲ提出

ス而シテ其插入ノ位置ハ若クハ合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セス云

ヤニ作ラントスルナリ

○二十番 眞作 麟祥 敢テ議長ニ問フ本條過リタル者ハ「マテ」ハ既ニ十番ノ

修正ニ決定シテ動カス可ラサル者ナリト信セリ然ルニ二十三番ノ

説出テ、更ニ問題トナレルハ猶其動カスコトヲ得ルカ如シ知ラヌ

「二圓以上二十圓以下云々」ノ文ハ既ニ決定セシ者ナルヤ否

○議長 「云々過リタル者」マテハ既ニ十番ノ修正ニ決定セリ而シテ

現問題ハ特ニ初ヨリ其發言ヲ許セリ故ニ二十三番ノ修正説ニ對ス

ル説アラハ例ニ由リ發言シテ可ナリ

○十五番柴原和 本官ハ午前ニ二十三番ニ賛成セリ而シテ二十三番ハ

更ニ適法ヲ合格ニ改作スルノ説アリ本官モ亦之ヲ賛成ス

○三十六番黒田清綱 動議者ハ合格ノ字ヲ若クハノ下ニ挿入スト云フ果

シテ然ラハ云々過リタル者ハマテハ既ニ十番ノ修正ニ決定シタル

者ナリ今ニシテ豈既決ノ章句ニ溯ルヲ得ヘケンヤ

○議長 二十三番ニ間フ適法ヲ合格ニ改作スルノ旨ハ之ヲ了セリ而

シテ其挿入ノ位地ハ何ノ處ノヤ之ヲ明言セヨ

○二十三番林友幸 若クハ合格ノ燈籠云ヤトナスナリ

○三十三番山口尙芳 本官午前ニ於テ記臆スル所ノ二十三番ノ動議ハ凡

船舶適法ノ燈籠及信號器云々ナリシ今ニシテ二十三番ハ文字ヲ改

作スルニ付キ又其文章ヲモ變更スルカ此ノ如キハ本官ハ之ヲ賛成

スルコ能ハサルナリ

○二十三番林友幸 前言ハ之レヲ過レリ文字ノ位置ハ實ニ三十三番ノ

言ノ如シ

○議長 二十三番ノ説ハ各位ノ聞ク所ノ如シ唯午前ニ提供セシ所ノ

「適法」ノ字ヲ合格ト改作センコトヲ請ヘリ此改作ヲ許スヘシトスル者

ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長 少數ナルヲ以テ改作ヲ許サス更ニ二十三番適法ノ、三字ヲ

加フルノ修正ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ二十三番ノ修正説ハ消滅ス

○三十番 細川潤次郎 本條但書ニ修正説アリ蓋シ合格適法ノ字句ノ如キ

ハ敢テ熱心シテ討論スルヲ要セスト雖モ此但書ニ至テハ實ニ困難ヲ極ムト謂ハサル可ラス思フニ本按ニ從ヘハ事情ニ適スルハ固ヨリ知ル所ナルモ現行規則第十條ニ「甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ用フル舷燈ヲ掲クルニ及ハス然レモ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一個ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但此時ニ綠光ハ左舷ヨリ見ヘス紅光ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ」右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタル時ハ亮

明ナル白燈一個ヲ標スヘシ且便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發スルモ苦シカラストアリテ此規則ハ同盟各國共ニ施行シ殆ト萬國公法ノ一部ヲナスカ如キ者ナレハ本邦モ亦之ヲ否ムコ能ハサル者ナリ法律既ニ然ルヲ今此但書ヲ加ヘテ甲板ナキモノハ此限ニアラストセハ全ク本則ヲ打消ス者ナリ若シ初メヨリ第十條ナカリセハ能ク事情ニ適シタル者ナルヘキモ已ニ之ヲ明掲シテ更ニ法律ノ方針ヲ變スルハ實ニ不可ナリ況ンヤ今此但書ヲ布告スルキハ現行法第十條ハ只心切上教示スルノ姿トナルニヨリ誰カ敢テ第十條ヲ守ルヘキモノアラシヤ且ヤ漁船小船等ハ此限ニアラストスルキハ罰金ニ處セラレサルノ一方ヨリ之ヲ見レハ太々恩惠ナルカ如キモ眼ヲ轉シテ一方ヲ見レハ他ノ大船ノ爲メニ沈没ノ災ニ係ルモ小船ハ法律保護ノ



外ニ在テ被害者ハ只恨ヲ吞ムノ外ナシト云フニ過キサカ如シ然  
 ラハ則但書ヲ全削シテ甲板ナキ漁船小船共ニ二圓以上二十圓以下  
 ノ罰金ニ處セン乎是又忍ヒサル事ナリ之ヲ内閣委員及主任官ニ聞  
 ク法律上タトヘ甲板ナキ漁船小船ハ此限ニ非ラストスルモ亦他ニ  
 規則取締等ヲ設ケテ違警罪ニヨリ之ヲ處分スト是亦時勢ニ適スル  
 ノ説ナルカ如キモ未タ穩當ナラサル者アリ何トナレハ法律既ニ此  
 限ニ非ストシ而シテ地方適宜ノ取計ヒヲ以テ違警罪ニ間ヒ少數ノ  
 罰金ヲ科スルトセハ地方規則ト法律ト抵觸スルノ恐レアリ夫レ地  
 方規則ハ弱シ法律ハ強シ強ナル者之ヲ間ハスシテ弱ナル者之ヲ罰  
 科ニ處セントスルモ豈行ハル可ケンヤ縱令ヒ能ク之ヲ行ハントス  
 ルモ必ス大審院ニ向テ破毀ノ裁判ヲ煩ハスニ至ラン故ニ本官ノ修

正ハ姑息法ニ似タルモ但甲板ナキ漁船及甲板ナキ小船ノ取締規則  
 ハ府知事縣令之ヲ起草シテ農商務卿ノ認可ヲ經ヘシトセントス此  
 ノ如クセハ地方官ハ夫ノ第十條第十一條ニ據テ取締法ヲ起草シ之  
 ヲ伺出ルナルヘシ此時ニ方テハ中央政府ハ五港等ノ如キ大船ノ輻  
 輳スル所若クハ大船ノ往來頻繁ノ江海ニハ第十條ノ趣旨ニ基キ其  
 取締ヲナサシメ又大船ノ入ル可ラサル港灣等ニ於テハ府知事縣令  
 適宜ニ酌量シテ其規則ヲ立テ以テ相當ノ取捨ヲナスヘシト指令セ  
 ハ是レ則チ宜キヲ制シ中庸ノ説行ハレテ法律上ノ融通ヲ爲スヲ得  
 實際ノ支障モ亦之レナキヲ信スルナリ

○十五番 柴原和 三十番ニ乞フ更ニ修正文ノ朗讀アラシマ

○三十番 細川潤次郎 但甲板ナキ漁船及甲板ナキ小船ノ取締規則ハ府知

○事縣令之ヲ起草シテ農商務卿ノ認可ヲ經ヘシトスルナリ蓋シ此文  
例ハ教育令第二十二條三「町村立私立學校幼稚園書籍館等設置廢止  
ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシトアリ及  
ヒ同二十三條但書同第四十九條等ノ文ニ準據スルモノナリ

○十五番柴原和 賛成ス其理由ハ既ニ三十番之ヲ盡セルヲ以テ敢テ贅  
陳セス本官曾テ此但書ニハ大ニ異論ヲ發セリ然ルニ特別建議アリ  
テ附托修正委員ヲ置クニ至レリ故ニ本官以爲ラク本官ノ前論或ハ  
修正委員ノ採用スル所トナラント然リ而シテ其事ナカリシハ遺憾  
トセリ反覆熟考スルモ本按ハ到底現行法第十條ニ矛盾ス三十番ノ  
修正ハ實ニ吾心ヲ獲タリト謂フヘシ

○議長 三十番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○外周布公平 修正説ノ非ナル所以ト原按ノ動カス可ラサル理由ト  
ヲ述ン甲板ナキ漁船及甲板ナキ小船ニ罰ヲ加フ可ラサルノ理由ハ  
前會既ニ之ヲ陳述セリ然ルヲ今其取締規則ヲ地方官ノ起草スル事  
トナスキハ各地方官ハ必ス設ケサル可ラサルコトトシ航舟少數ニ  
シテ沈没ノ虞ナキ場所ニ於テモ之ヲ設クルニ至ラン今此ノ沈没ノ  
虞アル場所ト其ナキ場所トノ多少ヲ較量スルニ實地其虞アルノ場  
所ハ少ナキヲ知ル彼ノ遠州洋及周防灘等ノ如キ場所ハ決シテ多カ  
ラサルヘシ且原按ノ此限ニ非ストアルハ二圓以上二十圓以下ノ罰  
金ニ處スルノ限ニ非スト云フニ在リ然レハ之カ爲メニ亦違警罪ニ  
間フ能ハサルノ理由ナシ新刑法第四百三十條ニモ「前數條ニ記載ス  
ルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰

則ニ從テ處斷ス<sup>ト</sup>アリ現行法ニモ地方ノ令ニ違フ者ハ壹圓五十錢  
 以內ノ罰金ニ處スルノ規則アリ三十番ハ禁令教令ヲ定ムル以上ハ  
 罰金ナクンハ無効ナリト云フカ如シ是恐クハ不當ノ說ナラン事柄  
 ニ依リ罰科ヲ加フルモ之ヲ守ラスヘキ<sup>ト</sup>其守ル如何ヲ問ハスシ  
 テ只之ヲ示スコトノ二様アリ示スト示サ、ルトハ其結果ニ至テ大  
 異アリ例ヘハ適法ノ燈籠及信號器ヲ所持セスシテ他船ノ爲メニ衝  
 突セラル、アラン此時ニ方テ被衝船若シ燈籠及信號器ヲ所持セハ  
 裁判上勝ヲ得ルハ必セリ三十番ハ教令ト罰則ヲ離ル可ラサル者ト  
 シテ論到スト雖モ決シテ否ラス况ヤ小船ノ大船ニ衝突シテ其大船  
 ヲ破ルハ絶無ト云フモ可ナル如キ者ナルヲヤ故ニ必スシモ罰金ヲ  
 科セス違警罪ニ問テ可ナリトスル所以ナリ既ニ英國ニハ大船ト雖

モ罰則ナシ只其出港前ニ燈籠信號器若クハ汽鐘等航海ニ必要ナル  
 船具ヲ檢査スルニ止マレリ今現行法第十條ノ明文アルニヨリ必ス  
 但書ニ罰ノ事ヲ示サ、レハ不可ナリト云ハ、現行法第一條ヨリ終  
 尾マテ悉ク教令禁令ニアラサルハナシ若シ三十番ノ意ヲ擴充セハ  
 現行法ハ全篇皆罰ヲ科スルノ明文ナキ能ハサラン本員ハ内閣委員  
 ノ職ヲ離レ局外中立ノ思想ヲ以テ虚心平氣ニ之ヲ考フルモ原按ハ  
 動カス可ラサル者トス

○十五番柴原和

内閣委員ハ大ニ本官等修正ノ意ヲ誤レリ日本海上廣

シト雖モ第十條ノ規則ヲ實施スルノ場所少ナシト云フ然ルニ本官  
 ハ其少キニヨリテ適宜法ヲ設ケント欲スルナリ看ヨ此布告一タヒ  
 出レハ山國等ノ如キ設ケサルモ可ナル地方ハ之ヲ設ケサルヘシト

雖モ設クヘキノ地方ハ起草シテ認可ヲ乞フヘシ若シ此布告ナケレハ適宜ノ規則ヲ施行スヘキ地ニモ或ハ之ヲ設ケサルニ至ルモ知ルヘカラス而シテ政府ハ亦之ヲ責ムルニ何ノ辭カアル又甲板ナキ小船他ノ大船ニ衝突スルハ自カラ禍ヲ取ルモノナリト云フ是レ甲板艦等ニ對セハ或ハ然ラン然レモ亦甲板アル小船ナキニシモアラス此ノ甲板アル小船ニ衝突シテ之ヲ破損セハ如何スルヤ之ヲ要スルニ内閣委員ハ本官等ノ修正ヲ誤認スルモノナリ

○二十七番<sup>玉乃</sup><sub>世履</sub> 三十番ノ所論ハ本官等修正ノ時ニ方リ曾テ反覆討論セシ所ノ者ナリ思フニ甲板ナキ漁船小船ヲ此限中ニ加ヘテ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ徵スルハ事情忍ヒサル事ナリ然レモ三十番ノ所謂既ニ法律ニ明文アリテ其罰科ナキハ不可ナリト云フハ机

上ノ論理ニハ合スルモ實際ニ於テハ又愍然ノ情ナキニアラス本官等ノ原按ニ從ヒシモ皆之レカ爲メナリ而シテ之ヲ補フニハ内閣委員ノ説ク如ク實施遠カラサルノ新刑法第四百三十條アリ是レ能ク事情ニ適スル者ナリ縱ヒ新刑法未タ實施ナキモ地方官ハ現行法ニ由リテ違警罪ニ處スルヲ得ルナリ或議官ハ地方官ニ放任セハ或ハ之ヲ怠ルアルモ料知ス可ラスト云フは何ノ言ソヤ又法律ニ明文ナケレハ地方官違警罪目ヲ以テ之ヲ處分スルモ遂ニ大審院ニ破毀ヲ求ムルヲアルヘシト云フ然レモ是レ地方規則ニ由ル所ノ處分ナレハ大審院豈之ヲ破毀スルヲ得可ケンヤ況ヤ此限ニ非スト云フハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スルノ限ニアラスト云フノ意ナルヲヤ抑新刑法違警罪ノ罰金ニハ第四百二十七八九條ノ階段アリ地方

官ハ此階段ニ由テ之ヲ處分セハ大審院猶之ヲ破毀スルコトヲ得ルト  
思フ乎之ヲ要スルニ本官等政府ノ意ト内閣委員ノ言トヲ聞キ此ノ  
如クセサル可ラサルノ要領ヲ悟レリ法律ハ教令ノミニシテ可ナル  
ノ例多シ自家ノ怠慢ヨリシテ覆沒毀損スル等ハ自カラ速クノ禍ナ  
リ他船ニ衝カレテ破損覆沒セハ民法上其要償ヲナスヲ得ルナリ何  
ソ局促罰則ヲ要センヤ

○三十番 細川潤次郎

内閣委員ハ其徳ヲ二三ニセリ甲板ナキ漁船及甲板  
ナキ小船ハ此限ニアラストシテ此法律外ニ置ク者ナリト云ハ、讀  
テ字ノ如シ而シテ本則第十條ニ矛盾ス又外國ニ於テモ英國ハ罰則  
ニ間ハスシテ只民法上ノ事トスト是レ至當ノ事ナリ佛國ニモ其例  
アリ米國ニ至リテハ罰金ニ處スルノ條例アリ若シ罰金ナキヲ可ト

セハ全然設ケサルニ如カス已ニ罰則ヲ立ル上ハ豈之ヲ偏スヘケン  
ヤ又本按ノ但書ハ此ノ如キモ地方官ハ壹圓五十錢以内ノ罰金ヲ科  
スルヲ得ト云フモ法律既ニ此限ニ非スト明示ス地方官豈敢テ之ニ  
科罰スルヲ得ヘケンヤ又二三歩ヲ退テ之ヲ論センニ漁父等毫モ過  
怠ノ罰ニ注意セヌシテ生計ヲ營ムニ際シ突然地方適宜設置ノ違警  
罪ニヨリ壹圓五十錢以内ノ罰金ヲ徴セラレハ彼等ハ甲板ナキ漁船  
及小船ハ此限ニ非ストフ法律アルヲ知ル者ナレハ此處分ニ吃驚シ  
如何ナル混亂ヲ生スルモ知ルヘカラス此ノ如クシハ實地ノ弊ハ却  
テ多キヲ知ル故ニ本官ハ修正スルヲ前陳メ如シ原案ノ如ク一旦法  
律上ニ縱シテ更ニ地方規則ニ據ニスルハ體裁ヲ得タル者ニアラス  
又此限ニ非ストハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スルノ限ニアラ

スト解スルハ内閣委員並ニ二十七番トモニ最モ奇怪ノ意想ト云ハ  
 サルヘカラス又三圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スルノ限ニアラス  
 ト云ハ、其罰金ハ何由テ之ヲ處スルヤ本官ヲ以テ之ヲ見レハ凡  
 船舶燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ  
 装置ヲ過リタル者ハマテ本條ノ根源材料トス罰金トナルモノハ  
 事實材料ナリ故ニ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ストアルノ字ハ  
 之ヲ舍キ過リタル者ハ罰金ニ處スト讀ムモ亦差支ナシ然レハ此限  
 ニアラストハ處罰ノ限ニアラザルコト明白ナリ輕易ノ言或ハ不敬ニ  
 涉ルノ嫌ナキニアラサレトモ内閣委員二十七番ハ或ハ誤解ニアラ  
 サル乎對ハ川書ハ其ノ成キハ此限ニ非ス  
 ○二十七番玉乃 三十番ハ此限ニ非スヲ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ニ處スルノ限ニ非スト云ハ、本材料ヲ棄ツルモノナレハ其罰ハ何  
 ニ由テ之ヲ處スルヤト云フ其レ然リ此一句ノ解ハ表裡皆同シ惟フ  
 ニ罰ニ名ナクシハ其罰何物ナルカ懲役カ罰金カ將タ禁獄カ之ヲ知  
 ルニ由ナシト雖モ已ニ本文ニ二圓以上二十圓以下ノ罰金トアル以  
 上ハ之ヲ承ケテ其域外ト云フ事タルヤ明ナリ又既ニ此限ニ非スト  
 ○ノ明文ヲ掲クルルハ他ニ地方適宜規則ヲ設ク可ラス若シ之ヲ設ケ  
 テ違警罪ノ罰金ニ處セハ其處セラル、所ノ者ハ吃驚スヘシト云フ  
 誠ニ然リ其規則ヲ設ケ民ヲシテ知ラシメスシテ之ニ處セハ吃驚ス  
 ルハ無論ナリト雖モ之ヲ設ケ之ヲ知ラシメ而シテ後違警者ヲ處ス  
 ルニ何ノ吃驚スルコトカ之アラシ蓋シ新刑法ニモ示ス如ク法律ニ正  
 條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコト得ス法律ハ頒布以前

ニ係ルノ犯罪ニ及ホスヲ得スト是法律布告施行ノ原則ナリ是等ノ理由ナルヲ以テ此順序ヲ誤リ裁判官之ヲ罰スルヲアラハ必ス大審院ニ上告シテ其破毀ヲ求ムルヲ得大審院ハ必ス之ヲ受理シテ破毀スルハ知ルヘキナリ誰カ法律ハ頒布以前ノ犯罪ニ係ルト云フヤ

○十五番柴原和内閣委員ハ此限ニ非スト云フハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スルノ限ニナラスト云ヘリ想フニ是レ失言ナラン仍テ本官ハ直ニ其失言ヲ責メン下欲セシモ甚タ大人氣ナキヲ以テ沈黙セリ然ルニ老煉ナル二十七番ニシテ尙且内閣委員ト其解ヲ同ウスルニ至リテハ本官モ茲ニ辨破セサルヘカラス蓋シ本官ノ解釋ハ三十番ニ同シク即チ本條ハ燈籠信號器等ヲ所持ス可シ然ラサレハ之

ヲ罰スト云フノ意ナリ然ルヲ此限ニアラストセハ全ク罰ニ漏ルモノニシテ是レ第十條ニ矛盾スルノミナラス實地ノ障害亦尠少ナラス之ヲ要スルニ此但書ナキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處セラルヘキモヨリ隨地便宜ノ法ヲ設ケテ農商務卿ノ認可ヲ經テ之ヲ施行セハ一舉兩全ノ得策ナリトスルノミ若シ之ヲ原按ノ如クスルハ甲板ナキ漁船小船ノ所持人ハ辭ノ以テ法ヲ避クヘキアルナリ何ソ其レ誤解者ノ多キヤ

○外一番周布公平討論ノ結局ハ法律ノ見解如何ニアルナリ三十番ハ此限ニ非区ヲ過リタル者ハマテニ止マルト云フ蓋シ自家隨意ノ解ト云フヘシ十五番ハ云ク内閣委員ノ失言ハ敢テ之ヲ尤ムルモ大人氣ナキヲ以テ沈黙セシト雖モ老煉ナル二十七番亦此言ヲ爲スニ至テ

ハ沈黙スル能ハスト何ソ二十七番ニ心切ニシテ本員ニ不心切ナル  
ヤ十五番ヨ聽一聽セヨ苟モ内閣委員タル本員ハ善惡ヲ差別是非ス  
ルノ腦アリ亦之ヲ供述スルノ口アリ豈精神混茫シテ貴重ナル議法  
場裏ニ於テ失言ヲ吐ク者ナランヤ

○議長 三十番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ三十番ノ修正説ハ消滅ス即チ本按ニ決シ次

條ニ移ルヘシ

書記官 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十八條 檣燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ得タル製造人ノ製造  
シタルモノニ限ルヘシ若シ之ヲ犯ス者ハ壹圓五拾錢以内ノ科料

ニ處ス

但合格ノ舶來品ハ此限ニアラス

○三十三番 本官ハ素ヨリ本會ニ於テ本條ニ對シ目的ヲ達スル

ノ趣意ニハアラサレ第三讀會ノ豫備ノ爲メニ聊カ陳述スル所ア

ラントス即チ其目的ハ本條削除ノ意見ナリ蓋シ本條ハ内閣下附原

按ニハ載セサル所ノ者ニシテ實ニ附托修正委員ノ提出スル所ナリ

惟フニ附托修正委員ノ之ヲ提出セシハ深意ノアル所ナルヘシト雖

モ本官ヲ以テ之ヲ見レハ却テ障碍ヲ來タスコ尠少ナラサルヲ知ル

何トナレハ農商務省ノ許可ヲ得タル製造人ノ製造シタル者ニ限ル

ヘシトスルハ從來驛遞局ノ許可ヲ得テ製造シタル者ハ粗惡ナリ

ト云フニ同シ而シテ今日マテ慣用セシ驛遞局ノ許可ヲ得タル製造



人ノ製造シタル者ハ何ヲ以テ俄然粗惡ナリトシテ此改正ヲ來シ此  
 損失ヲ人民ニ蒙ムヲシムルヤノ間ヲ起シ遂ニ政府ニ向テ要償ノ訴  
 ヲ起サシムルニ至ルヘシ勿論我人民ハ未タ此ノ如キ訴ヲ起スコト  
 アラサルヘキモ若シ之ヲシテ歐米人ナラシメハ必ス其然ルヲ保タサ  
 ルナリ且ヤ合格ノ舶來品ハ此限ニ非スト云フ舶來品トハ敢テ歐米  
 ノミヲ指スニアラス支那人ノ作ル所印度人ノ製スル者モ悉ク舶來  
 品ナリ然ラハ則チ我人民ハ農商務省ノ許可ヲ得タル製造人ノ製造  
 シタル者ニアラサレハ縱ヒ從來遵用スル所ノ者モ將來作製スル所  
 ノ合格品モ共ニ之ヲ用フルヲ得スシテ却テ支那印度人ノ製造シタ  
 ル者ナレハ之ヲ此限ニアラストナスカ如シ何ソ夫レ不可ノ甚シキ  
 ソヤ願タハ第三讀會ニ方リ第二十七條ニ稍注意ヲ加ヘ而シテ本條

ヲ削除スルノ議ニ決センコトヲ

○九番 鶴田 皓

本官ハ三十三番ヲ賛成セント欲スレモ惜ムヘシ第二十  
 七條中ニ合格若クハ適法ノ文字ナキヲ以テ第三讀會ニ方リ先ツ第  
 二十七條ヨリ修正シテ遂ニ三十三番ノ修正ニ及ハ、謹テ之ヲ賛成  
 センノミ

○三十番 細川 潤 次郎

三十三番ノ修正說ヲ賛成ス

○議長 三十三番

修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス  
 ○三十三番 山口 尚芳 望外ノ賛成ヲ得タルヲ以テ更ニ前說ヲ敷衍セン九  
 番ノ謂フ所ハ本官素ヨリ之ヲ知ル已ニ之ヲ知リ而シテ此言ヲ爲ス  
 ハ亦第三讀會ノ煩ヲ省カシカ爲メナリ本條農商務省ノ許可ヲ得タ  
 ル製造人ノ製造シタル者ニ限ルヘシトスレハ從來ノ品ハ不用トナ

リ而シテ其所有者ハ從來合格ノ品ナリトシテ以テ遵用セシニ政府  
好事ヨリシテ更ニ農商務省ノ許可ヲ得テ製造シタル品ニアラサレ  
ハ用フルコトヲ得ストナスニヨリ敢テ要償スト云ハシトテ恐ル、ナ

○十三番 山口

○十一番 渡邊

現問題ハ最モ老煉ナル議官ノ首唱説ニシテ其説ヤ舷

燈ハ色ヲ發スレハ可ナリト云フカ如キ簡易ヲ貴フモノ、如シ果シ

テ然ラハ取締ノ付クヘキナシ況ヤ九番ノ論スル如ク已ニ第二十七

條ニ合格ノ文字ナキ以上ハ茲ニ本條ヲ削ルノ非ナルハ言ハスシテ

知ルヘキヲヤ且又本條ニ農商務省ノ許可ヲ得テ製造シタル者ニ限

ルトセシハ政府好事ノ致ス所ト云フモ是レ只農商務省ト驛遞局ト

其名ヲ異ニスルノミ豈之カ爲メニ俄ニ舊物ヲ毀棄スル等ノコアラ

シヤ又三十三番ハ合格ノ舶來品ニ對シテ痛ク駁撃スト雖モ是亦前

會以來述シ如ク舶來品ハ高價ナルモ堅牢ナル者ナリ人民ノ之ヲ用

フルハ却テ嘉ミスヘキコナリ未タ知ラス印度人等ノ此堅牢品ヲ作

ルコトヲ此事ニ對シテ輸出入平均不均論ヲ持出シ其非ヲ辨スルカ

如キハ抑末ナリ此ノ如クシハ其本體タル船舶モ之ヲ外國ニ買求ス

ルヲ禁スヘシ論端亦違フニアラスヤ本官等殊ニ舶來品ノコトヲ掲ケ

○シハ洋製ノ船舶ヲ購フヤ我邦人ノ未タ免レサルコトニシテ此船舶ヲ

購フヤ必ス舷燈ノ類ハ附属スルモノナリ故ニ此但書ヲ副ヘサルハ

ハ堅牢高價ノ貴品モ破棄セサル可ラサルノ憂アレハナリ

○三十番 細川潤次郎

本官ハ三十三番ノ賛成者ナリト雖モ其理由ニ至テ

ハ自カラ發議者ニ異ナリ素ヨリ今日ニ方リ法ヲ三章ニ約スルコトハ

能ハサルコナレモ不用ノ法律ヲ設ケンヨリハ寧ロ簡明ニシテ已ム  
 ○可キハ之ヲ已メント欲スルナリ況ヤ本條ハ原按ニ於テモ亦此レナ  
 キモノヲヤ又況ヤ之カ取締ヲナスニハ別布告案アリテ豫防ヲ成ス  
 能ハサルノ理ナキヲヤ是レ本官カ删除説ニ賛成セシ所以ナリ  
 ○十一番 渡邊 三十番ハ本條ヲ目シテ無用ナリト云フト雖モ第二布  
 告按ニ檣燈及絃燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ  
 製造スルコトヲ得ストアリ已ニ之ヲ法律ト定ムル以上ハ其偽造品  
 ヲ買者モ亦之ヲ罰スルコトナクハ彼レ遂ニ徒法トナルナリ夫レ人  
 ノ物ヲ買フヤ其廉價ナルヲ欲スルハ自然ノ常情ナリ其レ然リ故ニ  
 免許製造人ノ製造品ヲ用ヒサルモ罰ナシトセハ免許ヲ得サルノ製  
 造者ハ輩出シテ之ヲ廉賣シ買者ノ之レニ就クハ知ルヘキヲ以テオ

○二十七番 玉乃 世履 本凡ソ罪ハ一人ニテ成立スル者ト二人相對シテ成立  
 スル者トアリ即チ犯姦賭博ノ如キハ必ス甲乙間ニ成立スル者ナリ  
 是ヲ以テ彼是共ニ罰ス是レ至當ノ理ナリ現行密賣淫取締ノ如キハ  
 買者罪ナク單ニ賣者ヲ罪ス是レ法理上アル可ラサルノ理ナリ故ニ  
 本按モ製造人ニ罰條アル以上ハ受求者ニモ亦罰ヲ置キ不平均ナカ  
 ラシメサルヘカラス本條ハ存スヘシ  
 ○三十三番 山口 尙芳 反對論者ハ紅鬚黑奴ノ製造品モ舶來部中ナルノモ  
 問題ニ對シテハ毫モ駁撃ヲ試ミスシテ方針ヲ他ニ轉向シ巧ニ論理  
 ヲ作為スト雖モ已ニ檣燈絃燈ノ製造ハ必ス驛遞局ノ許可ヲ經サル  
 可ラサルノ現行副則ヲ廢止スル上ハ從來遵用ヲ品ハ如何スルヤ本

官ヲシテ判官ヲシメハ必ス農商務省ノ許可ヲ得タル製造人ノ製造セシ者ニアラサシテ驛遞局ノ許可ヲ經タル者ヲ用フルハ違令ナリトノ判決ヲ下サン然ルキハ被罰者ハ果シテ云ハシ從來驛遞局ノ許可ヲ得テ製造シタル者ハ合格ナルニヨリ之ヲ用ヒシニ今ヤ忽チ廢止ノ命アリ我輩貧ナリ更ニ新品ヲ購フノ餘資ナシ官請フ之ヲ交換セヨト此時ニ方リ政府ハ何ソ辭アリテ之ヲ拒ムヲ得ルヤ被罰者又云ハシ衝突預防ハ燈ノ善惡ニヨルナリ然ルヲ舊ヲ廢シテ直ニ新ニ就カシムルハ蓋シ政府此直稅ヲ我輩人民ニ課スルノ道ナキニヨリ口ヲ專賣人ニ假リテ此間稅ヲ取ルナリト到底此ノ如キ重大ノ理由アルニヨリ本條ハ削ラサル可ラス

○外一番周布公平本條削除説行ナハルレハ内閣ノ意ニ副フヲ以テ本員

亦聊カ陳述セントス抑使用者ヲ罰シテ偽造者ヲ罰セサルハ不平均ノ法律タルニ依リ則チ副則ヲ廢止スル所以ナリ然ルニ此副則ヲ廢スルモ舶來品ナレハ之ヲ例外ニ置クトスルハ實ニ解ス可ラサルノ事トス蓋シ此法律ハ各國公使ニモ廻示スヘキ者ナリ然レハ則チ之ヲ反譯シテ彼ニ示サンニ讀テ但書ニ至ラハ彼等必ス云ハシ我國ノ製造品ハ合格ナレハ之ヲ用ヒ貴國ノ製品ハ合格ト雖モ免許商人ノ作ニアラサレハ之ヲ使用スル事ヲ得サルヤ是レ笑フヘキノ事ナリト故ニ其本タル製造人ヲ罰スル第三布告案ノ如クシテ可ナリ製造人ト使用者ト共ニ罰セサルヘカラストノ論ハ不可ナリ既ニ製造人ヲ罰スルヲ法律アレハ必スシモ使用者ヲ罰スルノ法律ヲ要セサル

ナリ

○三十番笑作 麟祥 本官モ附托修正委員ノ一人ナルヲ以テ削除論者ニ向テ其然ル可ヲサル理由ヲ陳述セシ内閣委員ハ此但書ヲ外人ニ示サハ必ス其笑ヲ來タサント云フト雖モ試ニ見ヨ我邦今日文物典章ノ設置ヨリ事物悉ク海外ニ頼ラサルモノナク本規則ノ如キモ亦我創定ニアラス其レ然リ何ソ檣燈舷燈ノミ之ヲ彼ニ資テ耻辱トスルノ虚飾ヲ用ヒシヤ發議者ハ又云ク黒奴等ノ造リシ者モ猶是舶來品ナリト然レモ未タ聞カヌ黒奴能ク檣燈舷燈ヲ製造セシヨラ故ニ此舶來品トハ誰カ歐米諸國ノ舶來品ト解セサラシヤ且又發議者ハ從來驛遞局ノ管理ナリシニ今農商務省ニ變セシ以上ハ従前ノ燈ハ不用ニ屬スト云フト雖モ農商務省ハ乃チ驛遞局ノ相續人ニシテ唯其管理衙門ノ名稱ヲ變セシノミ何ヲ苦ンテ之ヲ杞憂スルヤ

○議長 三十三番ノ削除説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長 少數ナルヲ以テ三十三番ノ削除説ハ消滅ス即チ本案ニ決ス

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

○十一 布告案 三十三番ノ第五條ノ其意ヲ其旨ニ於テハ既述ス

○明治十三年七月第三拾五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

右布告候事

○三十番細川潤次郎 本官ハ本按全體ニ對シテハ異議ナシト雖モ亦之ヲ單行セサルモ可ナリトス蓋シ本案ノ要旨タル物件ニ制限ヲ畫スル

ニアラスシテ只製造人ニ對シタル者ナレハ之ヲ前按ノ末尾ニ移シテ第二十九條橋燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ストナサハ自カラ搜索記憶ニ便ナルヲ信スルナリ

○二十二番 津田眞道 賛成

○議長 三十番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○十一番 渡邊昇 三十番ノ修正說タルヤ其意ヲ得ス抑橋燈舷燈ヲ製造スルハ職工ナラスヤ然ラハ則航海者ハ海上衝突豫防規則ヲ見職工

○ハ本按ヲ見各其職業ニ屬スルノ法律ヲ其部中ニ見ル是レ世人ニ便利ヲ與フル者ナリ本案ハ別ニセサルヘカラス

○三十番 細川潤次郎 法令布告ハ素ヨリ衆人ノ見サルヲ得サル者ナリ而

シテ其中ニ就テ甲ニ切ニシテ乙ニ切ナラサル者アリ即本規則ノ如キモ航海者ノ最モ注意スヘキ者ナリ此事ニ關係シタル者モ亦注意セサル可ラス見ヨ本規則中ニハ製造方法ノ手續アルニアラスヤ然ラハ則製造人ハ單ニ本按ノミヲ見ルモ本規則製造方法ノ順序ヲ見スハ豈事ニ從フヲ得ンヤ是ニ由テ之ヲ見レハ分テ兩案トナスルハ兩案ヲ見ルノ煩アリ括テ一案トナスルハ其煩ヲ免ル、ノ便アリ蓋シ新聞紙若クハ雜誌ヲ出版セント欲スル者ハ新聞紙條例ヲ見テ其手續ヲナスト同一般ナリ去年議定セシ自家飲料酒類製造定限規則ノ如キハ本案ニ比スレハ重且大ナル者ナリ然ルモ猶酒造稅則ノ附則トナセシニアラスヤ證券印稅規則等ニモ亦此例アリ故ニ被治者ニ便セント欲セハ法律ハ類ヲ以テ聚メサル可ラス

○外<sup>周布</sup>一番<sup>公平</sup> 本案ハ海上衝突豫防規則ニ編入スヘキ者ニアラスシテ即チ一般人民ニ禁令スル者ナリ但纜カニ該規則ニ間接ノ牽連アルノミ然ルヲ三十番ハ各種ノ例ヲ引テ之ヲ該規則ニ編入セントシ多ク其引證ヲ舉クト雖モ其諸例ハ皆互ニ直接ノ關係ヲ有スル者ナリ本則題號モ若シ檣燈及舷燈規則ト掲ケハ三十番ノ説可ナルヘシ海上衝突豫防規則中ニ加フルハ未可ナリハ其<sup>取</sup>モ<sup>取</sup>ル<sup>ル</sup>ハ<sup>ハ</sup>則<sup>テ</sup>マ<sup>リ</sup>

○三十三番<sup>山口</sup> 本官モ三十番ト説ヲ同フス反對論者ハ本案ヲ海上衝突豫防規則ニ合併ス可ラスト論スレモ各國法令ノ編纂皆其類ヲ以テ之ヲ別テリ本邦ハ從來一令ヲ案シテ一令ヲ草スルカ故ニ今日未タ此類別多カラスト雖モ見ヨ舷燈ヲ造ルニハ其寸尺光線等ノ事ハ載セテ海上衝突豫防規則ニアリ其レ然リ製造人ハ必ス該規則ノ

一本ヲ坐右ニ備ヘ置クヘキモノナリ本案モ亦該規則ニ牽連セリ各別ニ離散セシメハ其煩雜知ルヘキナリ然ルヲ類ヲ以テ聚ムルハ今日マテノ體裁ニ違フ等ノ口吻ヲ以テ之ヲ拒ムハ實ニ管見ト云フヘシ

○議長 三十番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ三十番ノ修正説ハ消滅ス即チ本案ニ決シ茲ニ第二讀會ヲ了ル第三讀會ノ日次ハ追テ報告スヘシ散會セヨ  
午後第三時五十三分開場

○第一...  
 ○第二...  
 ○第三...  
 ○第四...  
 ○第五...  
 ○第六...  
 ○第七...  
 ○第八...  
 ○第九...  
 ○第十...

元老院會議筆記明治十四年五月二日 五番

○第二百三十七號議案 海上衝突豫防規則ニ追加シ同規則ヲ廢止スルノ件

造方第三讀會 第二百四十二號議案 檢視ノ後開場

議長 大木 喬任

出席議員 二十番

- 一番 伊集院兼寛
- 二番 大給 恒
- 三番 伊丹 重賢
- 四番 河田 景與
- 六番 河瀬 眞孝
- 八番 福羽 美靜



九番 鶴田 美皓  
 十番 水本 成美  
 十二番 海江田 信義  
 十三番 楠本 正隆  
 十五番 柴原 和  
 十七番 安場 保和  
 山瀬 官二十番 箕作 麟祥  
 廿一番 神田 孝平  
 廿二番 津田 真道  
 廿三番 林 友幸  
 大久保 一翁

廿六番 渡邊 驥  
 廿七番 玉乃 世履  
 廿八番 中村 弘毅  
 廿九番 本田 立親雄  
 三十番 細川 潤次郎  
 卅一番 榎村 正直  
 卅三番 山口 尙芳  
 卅五番 津田 出  
 卅六番 黒田 清綱  
 卅八番 岩下 方平  
 卅九番 隆壽

内閣委員一番外 太政官少書記官周布 公平

○議長 第二百三十七號議按ノ第三讀會ヲ開ク例ニ依テ發議スヘシ

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス六番

布告案

明治十三年七月第三拾五號布告海上衝突豫防規則左ノ通追加候條此

旨布告候事

但明治九年二月第拾壹號布告廢止候事

○議長 發議ナキニ依リ決ヲ取ン本按ニ同意者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長全會一致ナルニ依リ本按ニ決ス

書記官森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス六番

罰則

第二十七條 凡船舶燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ  
懈怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金

○三十三番山口 本條ハ修正セサルヘカラス何トナレハ之カ原則タ

ル十三年第三十五號布告海上衝突豫防規則第十二條以下第二十二

條迄ハ霧中信號霧中速力及航法等ノ諸條アリテ衝突ヲ防クニ要用  
ナル方法ハ悉ク之ヲ掲ケテ復タ殘スナシ然ルニ今此罰則ハ僅々一  
二ノ故意ト二三ノ懈怠ニ係ル事トノミヲ示スニ過キス斯ノ如ク精  
粗其趣ヲ殊ニシ權衡其等ヲ同ウセサルハ頗ル其體ヲ得サルカ如シ

聞ク英國等ニ於テハ此等怠過ノ事ニ就キ罰則ヲ設ルコトナシト況  
 ヤ本則第二十四條ニ此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又  
 ハ海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ於テ必要ナル用心ヲ怠ルヨリ生シ  
 タル事件ニ於テハ船船主船長乗組人員各其責ヲ免ル可カラサルモ  
 ソトスト、明文アレハ特ニ罰金ヲ課セサルモ他ニ對シテ要償ヲ爲  
 ス能ハサルニ依リテ其弊害ヲ防クニ足ルハ申ヤ故ニ本官ハ之ヲ  
 修正シテ凡船舶合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セサル者ハ貳圓以上貳  
 拾圓以下ノ罰金ニ處ストシ以テ單ニ故意ノ者ノミヲ處罰セントス  
 而シテ文中合格ノ二字ヲ加ヘタルハ前會ニテ陳述セシ如ク第二十  
 八條ヲ刪除セント欲スルカ爲メナリ幸ニ定數ノ賛成者ヲ得テ問題  
 ト爲ランコトヲ希望ス

○二十三番 林友幸 賛成

○三十番 細川潤次郎 賛成

○十五番 柴原和 賛成

○八番 福羽美静 賛成

○二十八番 中村弘毅 賛成

○議長 三十三番ノ修正說ハ賛成者定員ニ滿ルヲ以テ問題ト爲ス

○二番 大給恒 本官ハ目下ノ問題ニ同意スル能ハス何トナレハ本按ハ

過誤懈怠若クハ故意ニ係ル三様ノ罰則ナルヲ以テ罰金ノ範圍モ從

テ廣シ然ルニ現問題ハ特ニ故意者ノミヲ罰スルモノトシ而シテ罰

金ノ額ハ舊ニ依テ改竄セス是レ本官ノ現問題ニ左袒セサル所以ニ

シテ既ニ故意者ノミヲ罰スルノ法ト爲ス以上ハ斷然其金額ヲ若干

圓ト明示スルニ非サレハ文意連續セサルニ依テナリ其金額ヨリ若干

○二十七番 玉乃 世履 本官モ目下ノ問題ニ不同意ナリ茲ニ三十三番修正

ノ理由ヲ聞クニ懈怠ヨリ起ル衝突ハ特ニ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈

籠ノ裝置ヲ過ルノミニ限ラサレハ之ノミニ罰ヲ科スルハ權衡其宜

キヲ得ス且懈怠ニ起因セル衝突事件ニハ更ニ刑ヲ加ヘサルモ本則

第二十四條ヲ以テ民法ノ責ヲ負ハシメタレハ惟故意者ヲ罰スルノ

ミニテ足レリトスルモノ、如シ然ルニ其修正文ニ所謂合格ノ燈籠

及信號器ヲ所持セサル者豈悉ク故意ノミナランヤ本官ヲ以テ之ヲ

看レハ此等ハ實際ニ於テ過誤懈怠反テ其多キニ居ルヲ信ス然レト

モ修正論者ハ燈籠等ヲ所持セサル者ハ事實ノ如何ヲ問ハス皆故意

トシテ罰セント欲スルカ本官ハ是レ故意者ノミヲ處スルノ法ト解

スル能ハサルナリ

○十五番 柴原 和 本官ハ現問題賛成者ノ一人ナルヲ以テ之ニ左袒セシ

理由ヲ述レニ二番ハ故意者ノミヲ罰スルノ法律ナレハ其金額ヲ若干

圓ト明掲スルニ非サレハ不可ナリト云ヒ二十七番ハ現問題ハ故意

者ノミヲ罰スルモノト解シ難シト云フ兩者共ニ一理ナキニ非サレ

トモ是皆其一ヲ知テ未タ其二ヲ知ラサルノ説ナリ既ニ反對論者自

ラ云ヘル如ク燈籠或ハ信號器ヲ所持セサル者ト雖モ或ハ過誤等ニ

由テ然ルモノアリテ皆悉ク有心故造ナラサルナリ是現問題ニ貳圓

以上貳拾圓以下トシテ其別ヲ立ル理由ニシテ本官ノ之ヲ賛成スル

所以ナリ

○九番 鶴田 皓 三十三番ノ修正説ハ前會ニ於テ本官ノ聞ク所ト大ニ差

○異ナルヲ以テ之ニ左袒スル能ハス三十三番ハ懈怠ノ責ハ特ニ點燈  
及信號ヲ怠ル等ニ止マラサレハ寧ロ之ヲ除去シ獨リ燈籠或ハ信號  
器ヲ所持セサル者ノミヲ罰スヘシト云フト雖モ原來點燈及信號  
怠ルコトハ危險ノ最タルモノヲ示スニ在リ故ニ若シ三十三番ノ如ク  
之ニテ猶不足ナリトセハ宜シク之ヲ補充スヘシ何ソ削除ヲ是レ事  
トセン是レ本官現問題ニ同意スルヲ得サル所以ナリ然リト雖モ  
本按猶未タ間然オキ能ハス仍テ本官ハ現問題ノ決スルヲ俟テ更ニ  
修正ヲ提出セントス而シテ豫メ其文ヲ述レハ凡船舶合格ノ燈籠及  
信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リ  
タル者ハ云々斯ノ如クシテ本官ハ第二十八條ヲ削除セント欲スル  
ナリ

○三十三番山口本官修正ノ主旨猶未タ議場ニ徹底セサルモノアリ  
ト考フルヲ以テ再セ之ヲ論セン三番ハ若干圓ト罰金ノ額ヲ明示ス  
ルニ非サレハ不可ナリト論スレトモ燈籠或ハ信號器ヲ所持セサル  
モ亦過誤若クハ風波等ノ難ニ依リテ然ル者アリ此等ニ二十圓ノ重  
罰ヲ加フルハ不可ナリ故ニ二圓以上二十圓以下ト罰金ノ範圍ヲ廣  
クセリ又某議官ハ本按ニ點燈及信號ヲ怠ル等二三箇條ヲ掲ケタ  
ルハ危險ノ最タルモノナルヲ以テナリト説クト雖モ懈怠中ニ危險  
ノ輕重ヲ別ツハ本官ノ頗ル解セサル所ニシテ本條ハ本則第十二條  
以下衝突豫防規則中ノ二三箇條ニ止マリ且只夜中ノ豫防タルニ過  
キス特ニ大西洋等ニテハ濃霧ノ爲メ衝突ノ患害ニ罹ル者白晝却テ  
夜中ヨリ夥クシテ航海者モ亦特ニ之ヲ慎ムモノナリ是レ本官ノ本

案ヲ不備ト爲ス所以ナリ必竟此罰則ヲ設クルニ方リ最モ見易キハ  
 燈籠及信號器ヲ所持セタルニ在リテ其點燈如何等ノ思想ハ之ニ繼  
 テ發スル者ナルヲ以テ之ヲ此ニ掲ケタルニ過キサルヘシ故ニ本官  
 ハ是等ノ罰ハ第三十四條ニ讓リ惟燈籠或ハ信號器ヲ所持セサル者  
 ノミヲ罰セント欲スルナリトモ以テ之ヲ此ニ掲ケタルニ過キサルヘシ  
 ○外一番周布 本案ハ再ヒ修正委員ノ調査ヲ經テ既ニ第二讀會モ經  
 過セシモノナレハ本會ニ於テハ異議ナク可決スヘシト推測セシ  
 圖ラサリキ三十三番ヨリ斯ノ如キ修正説ヲ出テ問題トナラントハ  
 依テ本員ハ此ニ該論旨ノ正當ヲ失スル所以ヲ辯シ其ヲ以テ湮滅ニ  
 歸セシメントス三十三番ハ懈怠ニ起因セル衝突ハ點燈及信號ヲ怠  
 ○又ハ燈籠ノ裝置ヲ過ル等ノ儘ヤタル箇條ニ止マラサレハ之ニノ

ミ罰ヲ科スルハ不可ナリ特ニ懈怠ニハ本則第二十四條ヲ以テ民法  
 ノ責ヲ負ハシメタレハ更ニ處罰ヲ須ヒス惟故意者ノミヲ罰スヘシ  
 ○下論スレトモ燈籠及信號器ヲ所持セサル者豈獨リ故意ナラズヤ且  
 尤番モ云フ如ク點燈及ヒ信號ヲ怠ル等ハ之カ爲メ危險ニ陥ルノ最  
 大ルモノヲ示スニ在リ論者若シ之ヲ疑ハ、身躬ヲ洋中ニ在ルモノ  
 用テテ思考セヨ此時ニカリ衝突ヲ防クニ最モ著シク且要用ナルモ  
 ノハ何ヲ必スヤ點燈及信號ニ在ルヘシ是レ之ヲ掲ケル所以ナリ蓋  
 ※第三十四條ハ事變起テ後チ之ニ應スルノ法ニシテ本條ハ其未ダ  
 ○典起セサルニ先チ之ヲ處スルノ律ナレハ三十三番ノ如ク彼此同  
 視スヘキモノニアラス又同官ハ本條ヲ執テ夜中ノ事ノミヲ示スモ  
 之ノ如ク論スレトモ彼信號ノ如キハ必ス夜中ニ限ラス何時ニテモ

之ヲ用フルモノナレハ各位ニ於テモ心ヲ安ウシテ本按ニ同意アラ  
ルヲ希望スニハ又同官ハ本按ニ對シテ  
 ○二十番英作現問題ニ對シテハ三番並ニ二十七番等ノ駁議ニテ稍盡  
 タリト思考スレトモ尙ホ本官モ其不可ナル所以ヲ辯セントス三  
 三番ハ云々罰金ヲ貳圓以上貳拾圓以下トシテ其範圍ヲ廣クセシハ  
 風波等ノ爲メ燈籠或ハ信號器ヲ失フ者アルヲ以テナリト然レトモ  
 此ノ如キ抗拒スヘカラサル事變ニ遭遇シタル場合ニ在テハ其之ヲ  
 所持セサルモ必ズ罰セスシテ可ナリ又之ヲ所持セサル者ハ悉皆故  
 意者ナリト假定セハ二番ノ云フ如ク若干圓ト罰金ノ額ヲ明示セザ  
 ルヘカラス若シ本條ニ示ス所ノ箇條ノミニテ猶足ラストセハ宜シ  
 ク其不足ヲ補充スルノ説ヲ爲スヘシ假令有心故造ナラサルモ既ニ

害アリト認ル以上ハ點燈或ハ信號ヲ怠ル等ノ者ト雖モ何ソ罰スヘ  
 カラサルノ理アラシヤ其間ニ於テハ  
 ○三十番細川潤本官ハ本條及其但書ニ就キ大ニ異見アリトモ前會  
 以來ノ景況ヲ察スルニ今之ヲ陳ルモ到底無効ニ屬スヘシト思考ス  
 ルヲ以テ之ヲ躊躇シタリシニ恰モ三十三番ノ修正説アリテ其説々  
 本官ノ所見ト稍近キニ依テ去之ニ左袒セリ蓋シ本案ハ萬國公法  
 ノ一部分トモ稱スヘキ者ニシテ之ヲ同盟各國ノ海上衝突豫防規則  
 ニ徵スルニ獨リ亞米利加合衆國ニ此規則ニ背キ航海スル船舶ハ二  
 百弗ノ罰金ニ處シ其半額ハ告訴者ニ交付スヘシ依テ該船舶ハ其罰  
 金ノ爲メニ該犯則ニ裁判權ヲ有スル米國ノ地方裁判所ニ差押ユヘ  
 シトノ罰則アルノミニシテ他ノ同盟國ニ於テハ本規則ニ罰則ヲ掲

クルモノアルヲ聞カス本邦モ亦之ニ倣フカ若シ罰則ヲ必用トセバ  
 過誤ナリ懈怠ナリ有心故造ナリ皆悉ク網羅シテ之ヲ掲載スルカ或  
 ハ合衆國ノ規則ノ如ク概シテ此規則ニ背キ航海スル船舶ハ若干圓  
 ノ罰金ニ處スト爲メ何レカニ歸スルヲ宜シトス即チ本規則ハ成  
 ル可ク同盟各國ト同歸ナルヲ欲スルヲ以テ本官ハ第一布告按ヲ修  
 正シテ明治九年<sup>二月</sup>第十一號布告廢止候條此旨布告候事ト爲シテ此  
 第二十七八兩條ハ全ク之ヲ削除シ獨リ第二布告案ノ如キハ各國其  
 比ナキモノト雖モ奈何セシ曩日本官職ニ太政官ニ在ルノ日既ニ之  
 ○ガ調査ヲ爲シタルニ舷燈等ハ我政府ニ於テ容易ニ良品ヲ得ル能ハ  
 サルニ依リ獎勵ヲ爲メ其製造者ノ幾名ニ專賣ノ權ヲ付與シタルカ  
 故ニ之ヲ俄カニ人民ノ自由ニ放任セバ政府ハ恰モ右ノ誓約ヲ破ル

ノ恐レヌリ旁第二十七八兩條ハ之ヲ廢棄シ第二案ハ之ヲ採擇セン  
 トノ意見アリシカトモ其行ハレサルヲ慮リ數歩ヲ讓リテ三十三番  
 〇左祖セリ蓋シ其稍本官ノ説ニ近キニ由テナリハ蓋シ聞ク様シヤ  
 ○議長<sup>ニ</sup>發議盡タリト認ムルヲ以テ決ヲ取リ三十三番<sup>ニ</sup>修正説ニ同  
 意者ハ起立スヘシセリ本案ハ成チハ始メ衆議院又議院議決  
 〇起立者九人<sup>ニ</sup>要甲<sup>ト</sup>ニ備スル者<sup>ト</sup>ニ對シ本願ハ  
 ○議長<sup>ニ</sup>少數ナルニ依リ三十三番<sup>ノ</sup>修正説ハ消滅スル<sup>ト</sup>不<sup>レ</sup>可<sup>ク</sup>金ニ  
 ○九番<sup>船田</sup>本官ハ豫テ陳述セシ如ク本案凡<sup>レ</sup>船舶<sup>ノ</sup>下合格<sup>ノ</sup>三字  
 ヲ加ヘ且第二十八條ヲ削除セントス蓋シ前會ニ於テ適法<sup>ノ</sup>文字  
 ヲ加フルノ説モアリタシトモ若シ之ヲ入ル<sup>ト</sup>ニ於テハ農商務省<sup>ノ</sup>  
 許可ヲ得タル製造人<sup>ノ</sup>造リタル品ニ非サレハ何程精良<sup>ノ</sup>檣燈舷燈



モ之ヲ用フル能ハサルヲ恐レアリ合格トセハ舶來品ナリ我航海者  
 ノ自製品ナリ都テ我海上衝突豫防規則ニ適合スルモノハ皆使用ス  
 ルヲ得ヘシ故ニ本官ハ合格ノ、文字ヲ選ヒタルナリ又第二十八條  
 ○ハ第二布告案ノ檣燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サ  
 ○レハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ  
 處スト云ヘルニ照應シテ要用ナリト論スル者アリト雖モ本則ハ博  
 奕及犯姦律等ト殊ナリ本案ノ如キハ彼火藥取締規則及酒造稅則ノ  
 ○供求者ノミヲ罰シテ需用者ヲ問ハサルト同シク第二布告按ヲ以テ  
 官許ヲ得サル製造者ヲ罰スルニ止メ其購求者ニハ強テ罰ヲ科セサ  
 ルヲ宜シトス内閣モ亦此ニ見アツテカ下付ノ原按ニハ其條ヲ掲ガ  
 ス是レ本官本條ニ合格ノ、二字ヲ加ヘ第二十八條ヲ削ラントスル

理由ナリ幸ニ定數ノ賛成者ヲ得テ問題トナラントヲ希望ス

○十五番 柴原和 賛成ス蓋シ第二十八條ヲ削ルハ本官ノ持論ナレハナ

○三十一番 榎村正直 賛成合議ナレハ榎村ノ持論ニ賛成スル者ハ少ク

○三番 伊丹重賢 賛成ニ對シテ榎村ノ持論ニ賛成スル者ハ少ク

○二十三番 林友幸 賛成合議ニ對シテ榎村ノ持論ニ賛成スル者ハ少ク

○二十二番 津田真道 賛成合議ニ對シテ榎村ノ持論ニ賛成スル者ハ少ク

○議長 九番ノ修正說ハ賛成者定員ニ滿ルヲ以テ問題ト爲ス

○十七番 安場保和 本官ハ原按ヲ可トス前會以來合格ノ字ニ就テハ種々

メ議論アリ九番ノ說モ其歸スル所ヲ問ヘハ舶來品ハ合格ナレハ之

ヲ許シ本邦ノ製造品ハ官許ヲ得タル製造人ノ造リタル者ニ非サレ

ハ精巧堅牢ナルモノト雖モ之ヲ用フルヲ許サハルハ不平均ナリト云フニ在リ本官輩固ヨリ之ヲ知ラサルニ非サレトモ奈何セン是レ道理ニ偏シ實際ニ適セサルモノニシテ既ニ往年舷燈等ノ製造者ヲ定ムルノ時ニ於テ大ニ各地方官ノ配慮ヲ要シタルモ東京府ノ外之ヲ許シテ適當ナル者アルヲ發見セス爾來此等ノ工事モ漸ヲ追テ開進シタル可シト雖モ今日ニ在テハ猶未タ官許ヲ得タル者ニ非サレハ信任シテ其用ニ供シ難シ之ニ反シテ舶來品ハ皆堅牢ニシテ頗ル其用ニ適スルヲ以テ合格ナレハ則チ之ヲ許ス是レ彼ニ厚クシテ此ニ薄キニ似タレトモ其實貴重ノ人命ニモ關係ヲ有スルモノナレハ是又止ムヲ得サルナリ又第二布告案アレハ第二十八條ハ冗贅ナリト論スル者アレトモ決シテ然ラスタトヒ賣鬻者ノミヲ禁スルモ之

カ購求者ヲ問ハサレハ廉直ノ物ヲ購求セント欲スルハ人情ノ常ナレハ製造人モ亦利欲ニ惑ヒ特ニ廉價ナル粗惡品ヲ造リ以テ一時ノ利ヲ射ント圖ル者アルヘシ故ニ兩者俱ニ之ヲ罰スルニ非サレハ到底之カ管理ヲ爲ス能ハサルナリ是等ノ理由ニ依リ本官ハ全ク九番ノ說ニ不同意ヲ表スルナリ

○二十七番 玉乃 世履 本官モ現問題ニ同意スル能ハサルナリ蓋シ此問題タル第二十八條ニ牽連スルヲ以テ本官モ亦連帶シテ之ヲ論セン抑此第二十八條ハ内閣下付ノ原按ニハアラサルモ嚮日前修正委員カ法理ノ推究ヨリ加ヘタルモノニシテ要スルニ本案ノ精神タル勉メテ合格ノ燈籠及信號器ヲ用ヒシメントスルニ在レハ賣鬻者及購求者ヲモ併セテ罰スルニ非サレハ其目的ヲ達スル能ハサルナリ若シ

合格ナレハ何人ノ製造ニ係ルモ之ヲ用ヒテ可ナリトセハ第二布告案ハ遂ニ無用ト云ハサルヘカラス然ルニ今日ハ該按ノ如ク農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り製造ヲ允スノ秋ナレハ購求者ヲモ罰スルノ明文ヲ掲クルハ亦要用ト論セサルヲ得サルナリ故ニ九番ノ修正説ニハ不同意ナリ

○三十番 細川潤 第二十八條ヲ削ルハ前會以來本官ノ持論ナリ蓋シ目下モ論セシ如ク此罰則等ハ總テ設クルヲ欲セス又第二布告案ハ必竟濫造者ヲ防クノ法案ニ止マレハ我人民ニシテ精良且堅牢ナル絃燈等ヲ製スル者多キニ至レハ是レ亦削除スルヲ可トス要スルニ本官ハ法律ハ簡明ヲ貴ヒ冗長ヲ厭フト云フノ精神ヲ以テシテ既ニ三十三番ニ左袒セリ故ニ其説ノ消滅セシ以上ハ寧ロ九番ノ説ニ左

袒セサルヘカラス

- 三十三番 山口 本官ハ九番ノ修正説ニ同意ナルヲ以テ茲ニ第二十八條ヲ削除スヘキ理由ヲ辯シテ聊カ之ニ勢援ヲ添ントス蓋シ我人民ニシテ農商務省ヲ信シ其許可ヲ得タル製造人ニ就キ絃燈等ヲ購求シ異日之カ爲メ衝突ノ事アラフニ此時ニ方リ試験者ヲシテ之ヲ調査セシムルニ其品若シ不合格ナリトセハ之ヲ如何スルヤ其價金ハ製造人ヨリ出スカ將タ同省ハ此ノ如キ製造人ニ其製造ヲ許可シタルノ責ヲ免レサレハ官衙ヨリ出スカ此等ノ紛議實地亦ナキニ非ス即チ第二十八條削除ノ説アル所以ナリ
- 十番 水本 討議稍盡タリト思考スレトモ若シ九番ノ修正説消滅セ
- 八番 本官亦修正説ヲ提出セシ豫メ之ヲ述フ

○議長 發議盡タリト認ルヲ以テ決ヲ取シ九番ノ修正説ニ同意者ハ  
起立スヘシ

起立者十四人

○議長 半數ナルヲ以テ職務條例ニ依リ本官其可否ヲ決スルニ先チ  
茲ニ修正委員ニ問シ第二十八條ニ農商務省ノ許可トアリ是レ專ラ  
將來ノ事ヲ云フカ現行法既ニ然ルカ

○二十番 箕作 麟祥 本官ハ修正委員ノ一人ナルヲ以テ議長ノ下問ニ應セ

シ明治九年第十一號布告海上衝突豫防規則副則第六條ニ驛遞寮ノ  
許可云々トアリ是レ則チ現行法ナレトモ近頃農商務省新設アリテ  
驛遞局ハ其統轄ニ屬シタルニ依テ斯ノ如ク修正セリ猶圖書出版免  
許ハ圖書局ノ許否スル所ナルモ内務省ノ許否ト云フカ如シ

○議長 更ニ内閣委員ニ問フ原按ニ謂フ所ノ合格トハ其意如何

○外一 周布 公平 合格トハ燈籠等ノ大小及製造ノ模様等都テ本規則ニ

適スルモノヲ云ヒ其製造者ノ官許ヲ得タルト否トニ關セサルナリ

○議長 然ラハ合格ト云ハ、内閣ニテハ其製造者ノ何人タルヲ問ハ  
ス唯物品ノ本格ニ合ヒタルヲ云ヒ修正委員ノ意ハ人ニ依テ之ヲ定  
ムルモノ、如シ故ニ本官ハ九番ノ修正説ヲ可トヌ時恰モ亭午ナレ  
ハ午餐ノ爲メ暫時散會スヘシ

○正午閉場

午後零時三十分開場

退席 二番 大給 新恒

同 八番 福羽 美靜

同

水七番

安場 保和

同

丹六番

黒田 清綱

同

丹八番

岩下 方平

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

書記官

森山 茂

左ノ按ヲ朗讀ス

第二十八條 檣燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ得タル製造人ヲ製造

シタルモノニ限ルベシ若シ之ヲ犯ス者ハ壹圓五拾錢以内ノ料料

○罰ニ處スルハ合格シテハ不罰ニシテ其製造者ノ個人ニシテハ罰金

ノ但合格ノ舶來品ハ此限ニアラス

○九番 鶴田 本條ハ削除スヘシ其理由ハ既ニ前條ニ合格ノ三字ヲ插

入セシ上ハ前條ノ如ク更ニ危險ノ虞アルコトナク而シテ後ハ布告按

ニ由テ製造人ニ制限アレハ之ヲ買フ者ニ料料ヲ徴スルヲ要セサル  
ヲ以テナリ

○三番 伊丹 重賢 賛成

○十五番 柴原 和 賛成

○三十一番 眞村 正直 賛成

○二十三番 林友 幸 賛成

○二十一番 神田 孝平 賛成

○議長 九番ノ修正説ハ定數ノ賛成アルヲ以テ問題トナス

○三十番 細川 潤 次郎 本官モ亦問題ヲ賛成ス既ニ前條ニ合格ノ三字ヲ插

入スルノ修正ニ決セシハ即チ本條削除ノ豫備ト謂フヘキ者ナリ而

シテ本條ヲ存スルハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル製造人ノ製造シ

タル者ナレハ其品假令不合格ナルモ之ヲ使用スルニ妨ケナキノ嫌アリ豈官許ヲ得タル製造品ニ係ルモ其不合格ヲ不問ニ措クノ理アラシヤ

○議長 九番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ  
起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ九番ノ修正説ニ決ス

○書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

明治十三年七月第三拾五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル橋燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス  
右布告候事

○二十一番 神田孝平 本按ヲ修正セント欲ス其理由ハ此犯者ヲ罰スルニハ貳圓以上拾圓以下ト云フハ輕ニ失スルヲ以テナリ蓋シ橋燈舷燈ノ價ハ一箇必ス二圓以上ノモノナルヘシ然ラハ則チ二百乃至三百個ヲ偽造シテ而シテ後單ニ一個發覺シテ罰金二圓以上ニ處スルモ法律力アリト謂フヘキニアラス又何人ヲ論セス許可ヲ得ルトスレハ多少検査ノ方法モアルヘシ然ルニ官ノ指示ニ從ヘハ其費用自カラ廉ナラス指示ニ從ハサルキハ費用自カラ廉ナルノ事實アラシキ事此ニ至レハ偽造ノ弊ナキヲ保スル能ハス故ニ此弊ヲ救フニハ罰ヲ重クスルニ如クハナシ尤モ罰金額ノ多寡ヲ定ムルハ其至當ヲ得ル極メテ困難ナリト雖モ犯ス者ハ五十圓以上百圓以下トセハ或ハ可ナラント思考ス幸ニ賛成者ヲ得テ問題タラシク切望ス

○二十二番 津田 眞道

本案製造者始ト專賣免許權ヲ得タルニ均シキ者ナレハ之カ保護ヲ厚ウスルハ固ヨリ其所ナリ然ルニ其質造者ヲ罰スルニ二圓以上拾圓以下ノ金額ニ止ムルハ頗ル輕キニ失スルヲ以テ二十一番ノ修正說ヲ贊成ス

○三十番 細川 潤 次郎

本官モ亦一種ノ修正說ヲ有セシモ本按ハ既ニ附托修正委員ヲ撰フ二回ニ及ヒ而シテ反覆討論第二讀會ヲ經過セシ者ナレハ容易ニ動カス可キニアラストシ敢テ提出セサリシ然ルニ今二十一番ノ修正說アリ即チ贊成シテ以テ其餘論ヲ廢カン素ヨリ本按ノ罰金額ハ輕ニ失セリ現行法ニ就テ之ヲ例センニ明治八年第百三十五號布告出版條例罰則第一條ニ云ク「内務省へ届ケヌノ圖書ヲ出版シ及ヒ板權免許ヲ得ヌノ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本セス及

免許料ヲ出サヌノ發賣スル者ハ其刻板印本及賣得金ヲ沒收ス」其第二條ニ云ク「凡ソ偽板ヲ作り或ハ書中ノ字句及繪圖ノ模様ヲ少變シ若クハ少加メ其表題ヲ改メ其他總テ他人ノ板權ヲ侵メ出版スル者ハ罰金二十圓以上三百圓以下ヲ科シ其刻板印本及賣得金ハ沒收シテ板主ニ給付ス」及第三條ニ云ク「第一條及ヒ第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ之ヲ發賣スル者ハ罰金五圓以上百圓以下ヲ科ス其第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ發賣スル者ハ現存ノ圖書及賣得金ヲ沒收シテ板主ニ給付ス」ト又明治九年第九拾號布告寫眞條例ニモ此例アリ是ニ由テ之ヲ見レハ本案犯ス者ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ストセハ更ニ其賣得金ト現存品トハ之ヲ沒收ストノ文ナキ能ハス是レ本官ノ意見ナリ二十一番ノ說ハ之ニ同シカラスト雖モ其

精神ヲ同ウスルヲ以テ之ヲ賛成ス

○二十六番 渡邊 驥

賛成

○二十三番 林友 幸

賛成

○二十八番 中村 弘毅

賛成

○議長 二十一番ノ修正説ハ定數ノ賛成アルヲ以テ問題トナス

○外 一番 周布 公平

二十一番ノ説ハ實ニ苛酷ト謂フヘシ看ルヘシ從來此

事ニ就テハ罰金アルコナキヲ只乃チ海上衝突豫防副則第六條ニ舷

燈ハ驛遞寮ノ免許ヲ得タル製造人ノ製造シタルモノニ限ルヘシ若

シ之ヲ犯スモノハ金七圓五拾錢ノ罰金ヲ科スヘシトアリ是受用者

ヲ罰スル者ナリ而シテ之ヲ實際ニ徴スルニ亦敢テ犯ス者アルヲ見

ス是ニ由テ之ヲ觀レハ纔ニ製造ヲ保護スルカ爲メニ罰金ニ形ヲ存

シテ可ナリ豈苛酷ノ罰金ヲ科スルヲ要センヤ加フルニ五十圓以上  
百圓以下ト云クハ論者自ラ言ヘル如ク他ニ權衡ヲ取ラサルノ推測

○ニ過キサレハ之ヲ重クスルノ精神ヨリ見レハ千圓以上萬圓以下ト  
スルモ可ナリト謂フニ似タル者ナリ又看ヨ同副則第四條ニモ「來明

治十年一月一日以後ニ至リ止ムナキ事故アルニアラスシテ點燈セ  
サルモノハ金五圓ノ罰金ヲ科シ燈籠ヲ所持セサルモノハ金拾圓ノ

罰金ヲ科スヘシトアリテ大低罰金ハ拾圓平行ノ者ナリ

○十五番 柴原 和

本官ハ原按ヲ可トス反對論者ハ濫造アルヲ顧慮シテ

罰金ヲ増スコヲ主張スト雖モ己ニ第二十七條ニ合格ノ燈籠ト示ス

以上ハ濫造ノ不合格品ヲ買フ者ナキハ知ルヘキナリ又罰金ヲ輕ク

スルハ各所ニ製造人ノ多ク輩出スルヲ望ムノ方法ナリ又其製造品



ハ必ラス官之ニ極印スヘシ彼ヲ推シ此ヲ思フモ豈濫造ノ弊アル可  
ケンヤ

○廿一番 神田 孝平

十五番ハ濫造品ヲ買フ者ナシト論スレモ若シ濫造  
ノ顧慮ナシトスレハ何ツ本按ヲ要センヤ本案ノ成ルハ蓋シ之アル  
ニ由ルナリ而シテ其濫造者ノ出ル所以ハ事理ノ當ニ然ルヘキ者ニ  
シテ即チ偽品ハ廉價ニ作ルコトヲ得ルニヨルナリ又各府縣ニ製造人  
ヲ輩出セシメンカ爲ニ罰ヲ輕クスト云フ是或ハ本官ノ誤聞ナルカ  
ヲ知ラスト雖モ此布告ヲ要スルノ理由豈之カ爲メナランヤ

○二十七番 玉乃 世履

前案第二十七條ニ合格ノ三字ヲ挿入シテ第二十八  
條ヲ削リシ理由ヲ考究スルニ合格ナレハ敢テ其出所ノ如何ヲ問ハ  
スト云フニ止マレリ然ラハ則チ徹頭徹尾此趣旨ニ基カサル可ラス

其レ然リ其品合格ナレハ之ヲ使用スル者ハ免許製造人ヨリ買フモ  
偽造者ヨリ買フモ罰ナシト云フノ點ヨリ論到スレハ本按ハ之ヲ廢  
スルモ可ナルニアラスヤ然ルヲ合格ナレハ敢テ其品ノ出處ヲ問ハ  
ストノ論點ヲ定メ而シテ今ニ至テ更ニ其方針ヲ轉シ之ヲ重罰ニ處  
スルハ頗ル前後不連續ト云フヘシ其贊成者ハ又出版條例寫真條例  
ヲ引テ駁論スレモ他ハ發明免許ヨリ起ル者ニシテ素ヨリ此ト相對  
スル者ニアラス要スルニ合格ナレハ可ナリトスル者ナレハ其罪々  
ルハ唯願フテ許可ヲ得テ製造セサルノ一點ニアルナリ故ニ輕罰ニ  
シテ敢テ不可アルコトナシ原案ニテ可ナリ

○三十三番 山口 尙芳

本官ハ二十一番ノ論旨ト其本ヲ同ウシテ其末ヲ異  
ニスルニヨリ若シ本問題消滅セハ更ニ一修正ヲ提出セント欲ス思

フニ製造人ニ制限ヲ立テサレハ其取締ヲナス能ハスト云ハ、僅々  
 ○ノ輕罰豈其取締ヲナスヲ得可ケンヤ試ニ見ヨ法ヲ犯シテ發覺スル  
 其ハ十圓金ヲ出セハ可ナリトセハ何ノ爲ニ此制限ヲ立ル乎論者或  
 ハ云フ五十圓以上百圓以下ハ酷ナリト蓋シ時アリテハ酷ナラン即  
 チ偽造シテ一個若クハ二個ヲ賣リシ如キノ際ナリ然レモ亦時アリ  
 テハ寬ニ失スルヲアリ即チ多數ノ偽品ヲ賣却シテ後發覺スルノ際  
 ナリ故ニ本官ハ酷ト不酷トヲ論セス犯ス者ハ二圓以上十圓以下ノ  
 罰金ニ處シ其賣得金及現存品アル時ハ之ヲ沒收スト修正セント欲  
 ス此ノ如クシテ始メテ制限ノ趣意ヲ達スルヲ得ンノミ

○議長 二十一番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ  
 起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ二十一番ノ修正說ハ消滅ス

○三十三番 山口 尙芳 前陳ノ趣旨ニ由リ修正說ヲ提出ス乃チ犯ス者ハ二

圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ其賣得金及現存品アル時ハ之ヲ沒收

ス是ナリ此ノ如クシテハ管ニ苛酷ノ誹ヲ免ルハノミナラス制限ノ法

モ自カラ完全シ且ツ此法理文例ハ現行ニ多クナレハナリ

○二十一番 神田 孝平 賛成

○二十六番 渡邊 驥 賛成

○三十一番 榎村 正直 賛成

○三十番 細川 潤次郎 賛成

○二十三番 林友 幸 賛成

○議長 三十三番ノ修正說ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○二十七番 玉乃 世履

現修正説ハ恰モ是前論ト同一轍ナリ其賣得金ト其

現存品トヲ沒收スルモ其買得者ハ合格品ナルヲ以テ之ヲ使用スル

コヲ得而シテ其合格品ヲ製造賣沽セシ者ハ世ヲ益シテ却テ罪科ニ

罹ル是レ酷ニアラスシテ何ソヤ然ラハ此罰ハ他ノ犯法ト異ニシテ

權衡大ニ失セリ只慮ル所ハ此者若シ官許ヲ得ント欲セハ許可ヲ得

ルニ相違ナカルヘキニ之ヲ爲サ、ルニアリ故ニ其罪ハ官許ヲ得ス

シテ製造セサルニ根スル者ノミ

○九番 鶴田 皓

本官モ原按ヲ可トス到底本案ハ許可ヲ受ケスレテ製造

スル者ヲ罰スルヲ精神トス既ニ第二十八條ヲ削リシ以上ハ免許人

ハ專賣ニ均シキ權ヲ有スル者ナリ然リ而シテ偽造者ノ現存品ヲ沒

収スルトスレハ之カ買得者ノ所持品モ亦之ヲ沒收セサルヲ得サル

理ナリ此ノ如クンハ遂ニ第二十八條ヲ蘇生セシメサル可ヲサルナ

○三十三番 山口 尙芳

大凡法ヲ議スルヤ單ニ議場一片ノ論理ニ適セハ可

ナリトセハ實ニ易々タルコナリ蓋シ第二十八條ヲ削除セシ以上ハ

縱ヒ今日ノ事情ニ適セサルモ一場ノ論理法ニ副ハ、可ナリト云フ

ハ人民ノ幸不幸ニ留意セサルノ論ト云フヘシ且ヤ第二十八條ヲ削

リシハ合格品ヲ造ルヘシトテ官ヨリ之ヲ保護シ農商務省ノ許可ヲ

得タル者ノミニ製造セシメ而シテ此免許人ノ製造ニ係ラサルモ舶

來ノ合格品ハ之ヲ用フル可ナリト云フ不都合ノ點ニアリ然ルヲ九

番等ハ本官ノ論スル如クンハ第二十八條ヲ蘇生セシメサル可ラス

ト云フ本官ハ之ニ反シ既ニ該條ヲ削リシカ故ニカヲ本按ニ盡スナ

リ若シ夫レ偽造人ノ現存品ヲ沒收セハ買得品モ亦之ヲ沒收セサル  
 可ラスト云ハ、彼ノ酒造稅則ニ背キ漫ニ造酒スルモノモ犯則ナレ  
 ハ之カ受求者モ亦罰セサルヲ得サルカ決シテ然ラス彼賣藥規則ノ  
 如キモ亦其罰買藥者ニ及ハサルナリ故ニ此受求者ニハ合格ノ品ヲ  
 撰フヘシ製造人ニハ堅牢品ヲ作り試験ヲ受ケ免許ヲ得テ之ヲ製造  
 セシムヘシ此免許ハ手數料ヲ收ムルヲ要セス良品ヲ製セハ可ナリ  
 若シ又良品ヲ造ル能ハスハ官之ヲ教示スヘシ此ノ如ク懇切ヲ盡  
 スモ尙許可ヲ得スシテ漫ニ製造スル者ハ嚴ニ之ヲ罰シテ可ナリ何  
 ヲ理論ノミ以テ法ヲ立ルノ精神ナラシヤ

○三十番 細川潤次郎 現問題ハ純然本官ノ考案ニ合セリ蓋シ寬モ事ニ由  
 テハ不可ナルヲアリ猛モ亦不可アリ共ニ其極點ト極點トヲ論ス

レハ事必ス相違スル者ナリ本案偽造者ヲ罰スルニ二圓乃至十圓ニ  
 シテ取締ヲナサントスルハ寬法ナルヲ理ノ最モ觀易キ者ナリ本官  
 之ヲ農商務省ノ主任官ニ聞ク云ク凡ソ絃燈ノ價銅製十七八圓鐵製  
 ハ十一二圓ト是ニ由テ之ヲ觀レハ單ニ一個ヲ製スルモ殆ト二十圓  
 ニ近キノ商法ナリ若シ數多ヲ製造シテ利益ヲ得而シテ後發覺スル  
 モ最上限ハ十圓最下限ハ二圓ノ罰金ナリ豈好都合ノ商法ナラスヤ

○況ヤ修正說ノ如キハ類例多キノ法律ナルヲヤ

○番周布外一公平 偽造シテ大利益ヲ得ルヲアルヤ否ヲ考究スルニ蓋シ  
 人民ノ陰ニ事ヲ爲スハ稅ヲ免カレンカ爲メナリ酒ノ密釀藥ノ密製  
 皆然ヲサルハナシ絃燈檣燈ノ製造ハ敢テ稅アルニアラス只一片許  
 可願ノ手數ニ止マルニヨリ其手數ヲ經サルノ罰アラハ足レリ彼ノ

收税上ヨリ法ヲ嚴ニスルノ法律トハ全ク其性質ヲ殊ニスル者ナリ  
故ニ修正ハ不可ナリ

○議長 三十三番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

○起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ三十三番ノ修正説ハ消滅ス即本案ニ決シ旨

ヲ具シテ上奏スヘシ

午後第一時四十五分閉場

右訖テ抽籤番號ヲ定ム

元老院會議筆記明治十四年四月十一日

○第二百三十八號議按海軍第一第二及第三讀會

議長 東久世通禧  
代理

出席議員

四番 河田 景與

六番 河瀬 眞孝

九番 鶴田 進皓

十一番 渡邊 昇

十三番 楠本 正隆

十五番 柴原 和

十七番 安場 保和

二十番 箕作 麟祥

廿一番 神田 孝平

廿二番 津田 眞道

廿三番 林 友幸

廿四番 岩村 通俊

廿五番 大久保一翁

廿八番 中村 弘毅

廿九番 本田 親雄

三十番 細川潤次郎

卅一番 榎村 正直

卅三番 山口 尙芳

津田 出

内閣委員番外一番 太政官權大書記官名村 泰藏

内閣委員番外二番 海軍權大書記官 高畠 眉山

午前第十時三十分開場

○議長 本日ハ正副議長不参ニ依リ本官代理ヲ爲シ第二百三十八號

議按第一讀會ヲ開ク然ルニ本按ハ條項浩弊ナルヲ以テ慣例ニ依リ

目錄ノミヲ朗讀セシムヘシ各位之ヲ領シ例ニ依リ發議セヨ

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

海軍刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 刑期計算

第五節 假出獄

第六節 刑期滿免除

第七節 復權

第三章

第四章

第一節 不論罪及七宥減輕

第二節 自首減輕

第三節 酌量減輕

第五節 再犯加重

第六章 加減順序

第七章 數罪俱發

第八章 數人共犯

第九章 未遂犯罪

第十章 名稱例

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第二章 辱職

第三章 抗命

第四章 暴行

第五章 侮辱

第六章 燒燬毀壞

第七章 擅權

第八章 違令

第九章 逃亡

第十章 詐偽

○外一番名付泰藏

聊カ海軍刑法ノ改正ヲ要スル理由ヲ陳述セントス蓋シ現行軍律ハ明治四年ノ頒布ニ係ルモノナリ然ルニ昨年普通刑法ノ新タニ制度アルヤ勢ヒ共ニ軍律ヲモ改正セサルヘカラス且ヤ陸

軍刑法ハ既ニ議定ヲ經テ内閣ニ上奏アリ豈獨リ海軍ノミ之ヲ等閑ニ附スヘケンヤ故ニ本按ハ夫ノ陸軍刑法ノ議定ノ前後ニ方リ彼是參酌シ能ク其衷ヲ折シ只船艦ニ關スル箇條ヲ如キハ佛國其他各國ノ制度ヲ斟酌シ其名例ニ至テハ普通刑法ニ據リ餘ハ陸軍刑法ト大體異同ナキハ今敢テ贅セサルモ各位ハ能ク之ヲ知悉セラルヘシ若シ質議ノ條項アラハ從テ之ヲ辯セントス望ラクハ此意ヲ領シ速ニ議決アラシコトヲ

○十一番渡邊

本按ハ陸軍刑法議按ト比照スルニ條章ノ順次モ一層整理シ敢テ間然スル所ナシ只二三ノ小疑點アルヲ以テ爰ニ内閣委員ノ説明ヲ乞ハシトス第四十六條ノ末ニ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ剝官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒ



ス其官職ヲ失フトアリ蓋シ此剝官ハ軍屬其他ノ官吏ト對觀スレハ  
 將校ニ止ルコトハ分明ナルカ如シト雖モ陸軍刑法第四十七條ニハ全  
 ク此同文意ニシテ特ニ將校ノ二字ヲ加ヘリ思フニ本按ハ第十八條  
 ○ニ剝官ハ將校ノ刑ニ止ルノ明文アルニ依リ故ラニ之ヲ省略セシ者  
 ナルカ又第六十九條ニ其陰謀ヲ爲シ云々ノ文ヲ別項ニ揭示シ他ノ  
 條項ニハ多クハ斯ル事ヲ一條一文トセリ此一項ニ限り前文ト直接  
 セサルハ蓋シ故アリテ然ルカ又第七十五條ナル艦船ノ乘員艦船ヲ  
 破亡沈没シタル者ハ無論故造ニ出ルモレヲ指スナルヘシト雖モ文  
 面ニ據レハ或ハ風波ノ難ニ罹ルモノニモ及フヘク疑ハル果シテ然  
 ラサルカ否以上三問共ニ些々タル事項ニ似タレト一回ノ明解ヲ煩  
 ハサン

○外<sup>番</sup>二<sup>番</sup>高<sup>高</sup>山<sup>山</sup> 十一番ノ質問ニ答フルハ容易ナリ已ニ第十八條ニ將

校刑名ノ事ヲ明記スレハ第四十六條ノ剝官ハ將校ニ止ルヤ明ナリ  
 特ニ軍屬其他ノ官吏ト別記スレハ區別ハ益々明瞭ナリト信ス第二  
 ニ六十九條其陰謀以下ヲ別掲セシハ他ニ仔細アルニアラス減一等  
 ト減二等ノ刑ヲ區畫スルニ外ナラス又七十五條船艦破亡ノ事ハ同  
 文中其怠慢ニ出ル者トアル上ハ風濤其他ノ天災ニ罹ルモノハ其限  
 ニアラサルヲ知ルニ足ラン

○九番<sup>鶴田</sup> 本官ハ本按審査委員ノ一人ニ在ルヲ以テ聊カ番外二番  
 辨解ノ不備ヲ補ヒ十一番等ノ疑ヲ解カントス番外二番ハ第十八條  
 ト第四十六條ト相連帶スル如ク説明セシト雖モ其意ヲ區分スレハ  
 第十八條ハ單ニ海軍刑法ニ觸ル、ノ點ニシテ第四十六條ハ廣ク普

通刑法陸軍刑法ニ關係ヲ有スルモノナリ故ニ軍屬其他ノ官吏ノ事  
 モ同様ニ兩條ニ掲載スルニアラスヤ抑第四十六條ノ場合ハ數罪俱  
 發ノ事ニシテ是レ普通刑法ニ準シ其重キニ從フコヲ示スモノナリ  
 故ニ例ヘハ海軍刑法ニ觸テ將校劓官ヲ附加セラレ同時ニ普通若ク  
 ハ陸軍刑法ヲ犯シ其罪劓官ニ至ラサルモノアル時ノ如シ此時ニ於  
 テハ普通刑法ハ之ヲ單一ナル禁錮ニ處スト雖モ海軍刑法ハ其重キ  
 ヲ以テ劓官ヲ附加スルコヲ指示スル者ナリ是レ本條ノ設アル所以  
 ナリ

○二十番 箕作麟祥

抑海陸軍法ハ自ラ差異ノ點アルベキハ言ヲ俟タスト  
 雖モ同一ノ事ニシテ同一ノ文面ヲ用ヒ而シテ獨リ刑名ヲ別ニスル  
 モノアレハ亦其理由ヲ叩ガサルヲ得ス本按第百十九條ニ曰ク軍人

允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期限ニ後レ十日ヲ過キタル者  
 ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處スト而シテ陸軍刑法第百七條ニ  
 ハ此禁錮日數二月以上一年以下トアリ何故ニ彼是輕重一年ノ差別  
 ヲ立ルヤ尤モ陸軍刑法ニハ尙ホ別項ヲ設ケ戰時ニ於テ此條ヲ犯ス  
 時ハ六月以上二年以下トス本按ニハ戰時平時ノ別ナク此條ノ罪ヲ  
 立ル以上ハ戰時ノ場合モ亦之ヲ以テ處分スルヤ爰ニ委員ノ辯明ヲ  
 俟ツ

○番 名村泰藏

陸軍刑法ハ事々戰時ト平時トヲ別ニスト雖モ本按ハ  
 渾テ其別ヲ立テサルヲ以テ儀例ト爲ス故ニ二月ヨリ二年マテ則チ  
 陸軍刑法ノ兩項ヲ合シテ以テ平均ヲ立ツルナリ故ニ其平時ト戰時  
 トハ此年月數ノ中ニ於テ判官之ヲ酌量スルニ在ルソミ

○二十三番 津田 本案ヲ可トス各位往々質問アリト雖モ渾テ小節ニ  
 屬シ大體ニ議及ヌルモノナキハ皆同意ナルヘキヲ信ニ抑今般海軍  
 刑法改正ノ理由タルヤ内閣委員ノ辯明アリテ源ヲ普通刑法ノ改正  
 ○三取ルカ如シト雖モ本官ハ其淵源ハ尙ホ深ク且遠シトス看ヨ方今  
 我國陸海軍ノ組織タルヤ皆歐洲諸國ノ制ニ模倣スルニアラスヤ然  
 レモ其刑法ニシテ豈特ニ之ニ應セスシテ可ナランヤ本官曾テ職ヲ  
 陸軍省ニ奉セシ時已ニ此起草ヲ命セラレシモ當時ハ兵制ノ組織未  
 マ遽カニ今日ノ如クスル能ハサリシ且ツヤ其本主タル可キ普通刑  
 法依然トシテ不備ナルヲ以テ獨リ軍律ノミ改正スルモ其權衡ヲ失  
 フニ依リ己ムヲ得ス此事ヲ中止セリ今ヤ兵制組織全ク改正シ且普  
 通刑法治罪法モ新定アルニ及ヘハ如何ノ之ニ稱フノ軍律ナカルヘ

ケンヤ海陸軍治罪法モ亦速ニ設定スヘシトス故ニ本按ノ如キハ一  
 字一句モ改刪ニ及ハス速ニ施行アランコヲ望ム

○議長 質議已ニ悉クト認ム第一讀會ハ爰ニ畢ル

○番一 名村 本按ハ陸軍刑法ト牽連スルモノナレハ殊ニ至急ヲ要  
 外一 泰藏 ス故ニ慣例ニ依リ引續第二讀會ヲ開カレンコヲ乞フ

○議長 番外一番 櫻井 請求ヲ允スヘシト思考スル者ハ起立スヘシ  
 起立者十八人 櫻井

○議長 多數ナルニ依リ引續キ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

海軍刑法自録

第一編 總則

第一章 總法例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 刑期計算

第五節 假出獄

第六節 期滿免除

第七節 復權

第三章 加減例

第四章 不論罪及已減輕

第一節 不論罪及已宥恕減輕

第二節 自首減輕

第三節 酌量減輕

第五章 再犯加重

第六章 加減順序

第七章 數罪俱發

第八章 數人共犯

第九章 未遂犯罪

第十章 名稱例

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第二章 辱職

第三章 抗命

第四章 暴行

第五章 侮辱

第六章 燒燬毀壞

第七章 擅權

第八章 違令

第九章 逃亡

第十章 詐偽

○議長 本按ヲ可トスルモノハ起立スヘシ  
全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ本按ニ決シ第一編第一章ヲ問題ト爲ス

新記者曰ク左案以下議場ニ於テハ朗讀ヲ省カレシト雖モ此ニ登

録シテ閱覽ヲ便ニ供ス云々

海軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ズ

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照

シ輕キニ從テ處斷ス其未也博六七群セヨ香ハ殺害ノ起リ此照

第三條 第九十二條第九十三條第九十八條第九十九條第一百二條第

百四條第一百五條第一百六條第一百七條第一百八條第一百二十六條第百二

十七條第百二十八條第百二十九條第百三十條第百三十一條ニ記

載タル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷

ス第百三十一條ニ記

教唆若クハ補助シテ第百三十二條第百三十三條第百三十四條ノ

罪ヲ犯サシメタル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シク論ス

第四條 敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二

條第六十三條第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條ニ記

載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷

ス但其豫備若シクハ陰謀ニ止マレ者ハ第六十九條第七十條ニ照

ステ處斷ス

第五條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第

三編第五章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但第五十八條第九十九條第

百三十一條ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

○議長會本撥取可トスル者ハ起立スヘシ

團全員悉起立

○議長會全會ヲ致ナルニ依リ本按ニ決シ第二章ヲ問題ト爲ス

三 第三章 刑例

一 第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及モ附加刑ト爲ス其主刑ハ罰金

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期流刑

五有期徒刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁獄

九輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一重禁錮

二輕禁錮

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一剝奪公權

二剝奪官

三停止公權

四禁治產

五監視

第六沒收

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス

第十條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者亦同ク

第十二條 海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍卿ノ命令アルニ非ズルハ之ヲ行フコトヲ得ス

若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第十三條 前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條第十五條第十六條ノ例ニ同シ

第十四條 徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ノ例ニ同シ

第十五條 定役ニ服ス刑囚人ニ工錢ヲ分與スル辦法ハ普通刑法第二十五條ノ例若國條第三十四條ノ例ニ同シ

第十六條 第三節附加刑處分ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十七條 剝奪公權ハ普通刑法第三十條第三十二條ノ例ニ同シ

第十八條 剝官ハ將校ヲ刑トシ之ヲ宣告ス

軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ス用限

其官職ヲ失フ

第十九條 將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者ハ各本條ニ記載シタルノ外之ヲ附加スルコトヲ得



其判官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス

第二十條 普通刑法及ヒ陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖モ下士卒ハ其職役ヲ免セス

第二十一條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第二十二條 禁治産ハ普通刑法第三十五條第三十六條ノ例ニ同シ

第二十三條 監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條ノ例ニ同シ

輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付シタル者ハ普通刑法第三十四條ノ例ニ同シ

第二十四條 下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第二十五條 沒收ハ普通刑法第四十三條第四十四條ノ例ニ同シ

第四節 刑期計算

第二十六條 刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條

第五十二條ノ例ニ同シ

第五節 假出獄

第二十七條 假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條

第五十六條第五十七條ノ例ニ同シ

第六節 期滿免除

第二十八條 期滿免除ハ普通刑法第五十八條第五十九條第六十條

第六十一條第六十二條ノ例ニ同シ

第七節 復権

第二十九條 復権ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ

例ニ同シ

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者十八人

○議長 多數ナルニ依リ本按ニ決シ第三章ヨリ第九章迄ヲ問題ト爲

ス

第三章 加減例

第三十條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載

シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ヌ

第三十一條 第九十九條第四百條第五百五條第六條第七條第百

三十六條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第三十二條 前條ニ記載シタル各條以外重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照

シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三有期流刑

四重禁獄

五輕禁獄

第三十三條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第三十四條 禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルコト得ス禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡

ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖モ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス

第三十五條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第三十六條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ判官ヲ附加ス

輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖モ本刑判官ヲ附加スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四章 不論罪及ヒ減輕  
第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條 不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六

第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十

二條ノ例ニ同シ（前項又ヨ書思編）

第三十八條 此節ニ記載セタルノ外特別ノ不論罪ハ各本條ニ於テ

之ヲ記載ス（天目以下）禁斷ニ與テ相違ハ慎密ニ爲テ下

第三十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同

第三十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同

第三節ノ酌量減輕（第三節ノ酌量減輕）

第四十條 重罪輕罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量得テ本

刑ヲ減輕スルコトヲ得（本刑ノ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可

此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可

キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得（同）

其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス（第六編）

第五章 再犯加重

第四十一條 再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四

條第九十五條第九十七條第九十八條ノ例ニ同シ（官署ハ同）

第四十二條 再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレ

ハ之ヲ論スルコトヲ得ス（官署ハ同）

第六章 加減順序（官署ハ同）

第四十三條 加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

第七章 數罪俱發（官署ハ同）

第四十四條 數罪俱發ハ普通刑法第百條第百二條第百三條ノ例ニ

同シ（官署ハ同）

同シ（官署ハ同）

同シ（官署ハ同）

同シ

第四十五條 此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタル時亦一ノ重キニ從テ處斷ス

第四十六條 此刑法ノ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ陸軍刑法ノ剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テハ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ剝官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第八章 數人共犯

第四十七條 數人共犯ハ普通刑法第四百四條第五百五條第六條第七條第八條第九條第一百條ノ例ニ同シ但此刑法第八十七條

第八十九條第九十條第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條第三百三十三條ニ記載シタル罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第三條第四條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ

在ラズ

第九章 未遂犯罪

第四十九條 未遂犯罪ハ普通刑法第一百一條第一百十二條第一百十三

條ノ例ニ同シ

○議長 本按ヲ可トスルモノハ起立スヘシ

○議長、多數ヲルニ依リ本按ニ決シ第十章ヨリ第二編第二章迄ヲ問

題四爲之論 未定罪ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三

第十章 各種例罪

第五十條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士卒ヲ謂

將校同等軍人ハ總テ將校ト同シ普普通刑法第百十一條第百十二條第百十三

第五十六條 軍屬ト稱スルハ海軍出仕又文官其他海軍ニ從事スル

者ヲ謂クニ一等ニ屬ス

軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ニ同シ普普通刑法第百十一條第百十二條第百十三

第五十二條 司令官ト稱スルハ數隻又ハ一隻ノ艦船數所又ハ十所

軍中屯營ヲ指揮スル者及ヒ分遣ノ兵隊若シハ數隻ノ端舟ヲ指揮ス

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十條條ノ上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂ク同條第百十一條第百十二條第百十三

第五十六條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ其情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス  
二 諸般ノ職務ヲ司リ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス  
三 附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十七條 軍人反亂ヲ爲スト謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物

品ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十八條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故サラニ鎮撫ノ官吏ヲ

殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船兵隊港灣堡塞造船所造兵所

軍武庫火藥庫兵器彈藥糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ

付シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル緊要ノ圖書ヲ敵ニ付

シ若クハ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ又ハ暗號軍機軍情ヲ漏洩

シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船屯營造船所造兵所兵器彈藥

糧餉其他軍用ニ供ス可キ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シ

タル者ハ死刑ニ處ス  
第六十二條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ヲ缺  
乏ヲ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十三條 軍人敵ノ爲メ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス  
第六十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ  
處ス

第六十五條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲  
メ俘虜降人ヲ逃走セシメ又ハ劫奪シタル者ハ死刑ニ處ス  
第六十六條 軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシタル  
者ハ死刑ニ處ス  
第六十七條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨

害シ又ハ兵隊ノ潰走ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲  
シタル者ハ死刑ニ處ス  
第六十九條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ  
テサル者及ヒ其豫備ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ照シ各々等ヲ減ス  
其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第七十條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若ク  
ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル者  
ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ヲ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加  
第七十一條 軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ニ犯人集會ノ爲



メ家屋ヲ貸シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
第七十二條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上

二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第二章 辱職

第七十三條 司令官猶ホ防守スルヲ得可キ時ニ於テ敵ニ降り又ハ  
其艦船若クハ守地ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡ヌ可キ所ヲ盡サスシテ艦  
船若クハ兵隊ヲ率非道走シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ破亡沈没シタル者  
ハ死刑ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ

處ス

第七十六條 司令官其艦船破亡沈没スル時ニ當リ故ナク衆ニ先タ

チテ其艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ有期流刑ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ輕禁獄ニ處ス

第七十七條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險

ニ付シ之ヲ損壞シタル者ハ重禁獄ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十

一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十八條 司令官其艦船擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救護ノ方

略ヲ盡サスシテ之ヲ沈没シ若クハ損壞シタル者ハ一年以上一年

以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十九條 司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故ナク其事ヲ

爲サ、ル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ、判官ヲ附加ス

敵前ニ在テ我船舶ヲ救援ス可キ時故ナク其事ヲ爲サ、ル者亦同

シ、日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十條 司令官若クハ當直士官怠慢ニ因リ敵ヲシテ其艦船ニ乘

入ラシメタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス、其時敵前

第八十一條 司令官船舶ヲ護衛スルノ命ヲ受ケ其船舶ヲ委棄シタ

ル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ重禁獄ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十二條 前條ノ所爲其怠慢ニ出タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷

ス

一 敵前ニ在テハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テハ三月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十三條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ

盡サ、ル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ、判官ヲ附加ス

第八十四條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍機若クハ軍事ニ關ス

ル秘密ノ圖書ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處

シ、將校ハ判官ヲ附加ス

第八十五條 司令官内外國ノ船舶擱岸坐礁其他危險ノ時救援ノ請

求ヲ受ケ故ナク之ヲ肯セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

○二十番 辨作 詳 第一讀會ニ方リ十一番ヨリ質問アリシ如ク第六十九

條ナル其陰謀以下ヲ別項トスルハ他ノ諸條ニ比スルモ文体ヲ異

ニシ稍法文ノ体裁ニ關スルヲ以テ之ヲ前項ノ文末ニ直接スルヲ可

○十一番 渡邊 昇 賛成

○議長 二十番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○九番 鶴田 皓 二十番ノ修正說ハ一理アルカ如シト雖モ苟モ之ヲ一列

ニシ二項ヲ一文トセハ他ノ九十二九十三條等ニ於ケルモ亦皆然ラ

サルヲ得ス且ヤ法文ノ本則ヲ以テ論スルハ事柄ノ聊カ差違スル

ヤ之ヲ分畫スルヲ主トシ項ヲ一ニスルモノハ却テ變則トス況ヤ此

等ノ類ヲ一文トスレハ文章長キヲ加ヘ一目明瞭ノ本意ニ背クヲヤ

仍テ原按ヲ可トス

○十一番 渡邊 昇 九番ノ駁議アリト雖モ文詞ノ長短ニ依テ或ハ之ヲ分

項シ或ハ之ヲ合同スルカ如キ曖昧ノ言豈堂々タル法律ニ容ルハキ

者ナランヤ且九番ハ長文ヲ成スヲ恐ルト云フテ他ノ條ヲ引用スト

雖モ夫ノ九十二條ノ如キ之ヲ合スルモ僅ニ三行内外ノ文ナリ何ソ

一 目明瞭ナラサルヲ憂ヘンヤ故ニ本官ハ飽迄文例ノ一ナラシムヲ

○議長 二十番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

○議長 起立者二人



第八十八條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以

下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第八十九條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁

ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將

校ハ劊官ヲ附加ス

第九十條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯シタル者

ハ各一等ヲ加フ

第九十一條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲シタ

ル者ハ死刑ニ處ス

戰場ニ於テ上官ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者亦同シ

第九十二條 軍人守兵ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以

下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第九十三條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁

ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將

校ハ劊官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ有

期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスニ雖モ指示シテ之ヲ用ヒタル

者ハ時ヲ死刑ニ處ス

第九十四條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ公務ヲ行フニ

當リ暴行ヲ爲シタル者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校

ハ劊官ヲ附加ス

ハ劊官ヲ附加ス  
 其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ重禁獄ニ處テ、公費ヲ計テニ  
 第九十五條ハ軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁  
 ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將  
 校ハ劊官ヲ附加ス  
 其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ者  
 ハ重禁獄ニ處ス  
 首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシ  
 タル時ハ有期流刑ニ處テ附黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁  
 第九十六條ハ軍人多衆相集リ暴行ヲ爲シタル者首魁ハ二年以上五  
 年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ

處ス  
 第九十七條ハ軍人多衆結合シテ相鬪毆シタル者首魁ハ二年以上五  
 年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ  
 處シ將校ハ劊官ヲ附加ス  
 第九十八條ハ軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走  
 ヲ助ケタル者ハ重禁獄ニ處ス  
 第九十九條ハ軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪シタル者ハ  
 重懲役ニ處シ因テ殺傷シタル者ハ死刑ニ處テハ一月以上一年以  
 下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第五章 侮辱  
 第一百條ハ軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ二月以上三年以下  
 ノ輕禁錮ニ處ス

上官ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル時ハ一等ヲ加フ  
第一百一條 軍人文書圖畫ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演説ヲ爲シテ  
上官ヲ誹毀シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百二條 軍人守兵ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ一月以上一年以  
下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百三條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當  
リ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ十日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處  
ス

第六章 燒燬毀壞  
第一百四條 軍人火ヲ放テ艦船屯營造船所武庫火藥庫其他戰  
闘ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫

ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス  
第一百五條 軍人火ヲ放テ露積シタル兵器彈藥機械船具糧餉其他軍  
用ノ物品ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前若クハ軍中ニ在テハ死刑ニ處ス  
二 其他ノ場合ニ在テハ重懲役ニ處ス

第一百六條 軍人火藥其他激發ス可キ物品又ハ蒸氣罐ヲ破裂セシメ  
テ前二條ニ記載シタル物件ヲ毀壞シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ  
テ處斷ス

第一百七條 軍人艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰闘ノ用ニ  
供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ毀壞シ  
タル者ハ重懲役ニ處ス

五十三

第八條 軍人兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス  
第九條 軍人官給ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ十一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決シ第七章ヨリ終尾迄ヲ問題ト爲ス

第七章 擅權中ニ在テハ其罪ニ處ス  
第一百條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケタル後仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス  
第一百一條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ己ムコトヲ得

給サルニ理由ヲ擅ニ艦船若クハ兵隊ヲ進退シタル者ハ死刑ニ處ス

第八章 違令中ニ在テハ其罪ニ處ス

第一百十二條 司令官艦船若クハ兵隊ヲ率非故ナク其守地若クハ配置セラレタル地ヲ離去シタル者ハ左ノ區別ヲ從テ處斷ス  
一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ十年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ  
三 其他ノ場合ニ在テハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ

第一百十三條 將校艦船ノ直ニ在テ其直ヲ離レ若クハ守兵守處ヲ離レ其他軍人緊要ノ職務ニ服シ擅ニ其職務ヲ離レタル者ハ左ノ區別



別ニ從テ處斷ス  
 一敵前ニ在テハ死刑ニ處ス  
 二軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ  
 三在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
 三其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ  
 一剝官ヲ附加ス  
 第百十四條 將校艦船ヲ直ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサ  
 爾者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
 一敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 二軍中又ハ航海中ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第百十五條 守兵守所ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサ

ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
 一敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 二軍中ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 三其他ノ場合ニ在テハ十一月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス  
 第百十六條 軍人艦船ノ擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ司令官ノ命  
 ヲ待タズ其艦船ヲ退去シ又ハ其命ニ依リ艦船ヲ退去シタル後集  
 合ノ場所ニ來ラズ若クハ擅ニ其場所ヲ離去シタル者ハ三月以上  
 三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
 第百十七條 軍人守兵ヨリ告示スル禁令ヲ犯シタル者ハ左ノ區別  
 ニ從テ處斷ス  
 一敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ

附加ス

三軍中ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劔官ヲ  
附加ス

三其他ノ場合ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百十八條 軍人戰鬥ノ號報アル時故ナク其集合場ニ來會セサル  
者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劔官ヲ附加ス

第一百十九條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期限ニ後レ  
十日ヲ過キタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百二十條 歸休若クハ非職ノ軍人徵召ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ  
期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁

錮ニ處ス

二其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ一月以上一年以下ノ輕

禁錮ニ處ス

第一百二十一條 新募ノ兵徵集ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レ

タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁

錮ニ處ス

二其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ一月以上六月以下ノ

輕禁錮ニ處ス

第一百二十二條 司令官事變ニ因リ已ムコトヲ得ス暗號記號ヲ改メ又

ハ配置セラレタル地若クハ其命セラレタル所ノ事ヲ變更シ直チ

ニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十三條 軍人命ヲ受ケス艦船内ニ商貨ヲ積載シタル者ハ十

一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス但破壊若クハ危險ニ罹リタル

船舶ノ商貨ヲ保護スル爲メ移積シタル者ハ此限ニ在ラス

第二百二十四條 守兵妄リニ銃砲ヲ發シタル者ハ二月以上二年以下

ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十五條 軍人禮砲號砲其他空砲ヲ發スル時ニ當リ彈丸銅鐵

瓦石等ヲ裝填シテ發射シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ

處ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シ

テ處斷ス

第二百二十六條 軍人敵前軍中ニ在テ造言飛語ヲ爲シタル者ハ一月

以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百二十七條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシメタル者ハ二年以上五年

以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ重禁獄ニ處ス

第二百二十八條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具

ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ四月以上四年以下

ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ輕禁獄ニ處ス

第二百二十九條 軍人前二條ニ記載シタル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ

未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百十條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致シタル者ハ十一日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三百十一條 軍人逃走ノ俘虜降人ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ

剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第九章 逃亡

第三百十二條 軍人擅ニ艦船屯營本隊若クハ職役ヲ離レタル者ハ

左ノ區別ニ從ヒ逃亡ト爲シテ處斷ス

一敵前ニ在テハ輕禁獄ニ處ス

二軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三百十三條 軍人四人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ

左ノ區別ニ從テ處斷ス

一敵前ニ在テハ首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ輕禁獄ニ處ス

二軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者

ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ首魁ハ二年以上五年以

下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處

シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三百十四條 軍人敵ニ奔リタル者ハ死刑ニ處ス

第十章 詐偽

第三百三十五條 軍人敵地若クハ敵情ヲ探偵スルノ命ヲ受ケ詐偽ノ

報告ヲ爲シタル者又ハ戰場ニ在テ命令ヲ詐リ傳ヘタル者ハ五月

以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十六條 軍人糧食ノ支給ヲ掌ル健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ

配付シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ

處ス

第三百三十七條 海軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷疾及ヒ身體強弱ノ偽

證ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其囑託ヲ爲

シタル軍人亦同シ

第三百三十八條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シテ兵役ヲ免ル、

本ヲ圖リタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ第三讀會ハ爰ニ了ル

○外番一泰藏番名村 第二讀會モ異議ナク經過シタレハ尙引續キ第三讀會

ヲ開カレシヨヲ乞フ本會ハ

○三十三番山口尙芳 特別ニ建議ヲ爲ス本案ハ既ニ第一第二讀會ヲ經過

タルモ未タ二箇ノ修正アルヲ見ス是レ畢竟陸軍刑法ト同一種ニシ

テ其差ハ僅カニ艦船ノ事アルヲ以テナリ然レモ其艦船ノ

事タル更ニ異説アルヲ聞カス假令今第三讀會ヲ開クモ亦他ニ説ナ

キヲ信スルヨリ故ニ望ムラクハ特例ヲ以テ本會ヲ確定決議會トス

ルノ決ヲ議場ニ開ハレシコトヲハ

○二十二番津田眞道賛成

○三十番細川潤次郎三十三番ノ建議ハ理ニ於テ不可ナシト雖モ議事ノ

法例ハ必ス三讀會ヲ開カサルヘカラス今ヤ縦ヒ第三讀會ヲ開クモ

○三十三番ノ説ノ如ク更ニ煩ヲ加フルコトモアラサルヘシ而又議事ノ

例ヲ破ラサルヲ以テ本官ハ旁々第三讀會ヲ開キ之ヲ確定セシコトヲ

○欲ス

○議長 種々建議アリ先ツ三十三番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者二人

○議長 少數ナルニ依リ三十三番ノ建議ハ廢棄シ更ニ番外一番ノ請

求ヲ允スヘシト思考スル者ハ起立スヘシ

起立者十七人

○議長 多數ナルニ依リ直ニ第三讀會ヲ開ク尤モ便法ヲ用ヒ目錄ノ

朗讀ヲモ省キ議按ヲ二大別トシ先ツ第一編ヲ以テ問題ト爲ス

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ本按ニ決シ第二編ヲ以テ問題ト爲ス

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十八人

○議長 多數ナルニ依リ本按ニ決シ本會ヲ以テ確定決議トシ例ニ從

ヒ上奏セン散會スヘシ

午前第十一時三十五分閉場

千禧年十一月三十日開會

○議決 議案第一號

○議決 議案第二號

○議決 議案第三號

○議決 議案第四號

○議決 議案第五號

○議決 議案第六號

○議決 議案第七號

○議決 議案第八號

議決 議案第九號

元老院會議筆記明治十四年四月十八日

○第二百三十九號議案 福井縣管内裁判事務ヲ金澤檢視會

議長 佐々木高行

出席議員 廿三番

二番番 大給 眞恒

四番番 河田 景與

五番番 東久世通禰

六番番 河瀬 眞孝

八番番 福羽 美靜

九番番 鶴田 五皓

十番番 水本 成美

十一番 渡邊 久昇  
 十三番 楠本 正隆  
 十五番 柴原 美和  
 十七番 安場 保和  
 二十番 箕作 麟祥  
 廿一番 神田 孝平  
 廿二番 津田 眞道  
 出原編官廿三番 林 友幸  
 廿四番 岩村 通俊  
 廿五番 大久保一翁  
 廿六番 渡邊 巖

廿七番 玉乃 世履  
 廿八番 中村 弘毅  
 廿九番 本田 親雄  
 三十番 細川潤次郎  
 三十一番 榎村 正直  
 三十三番 山口 尙芳  
 三十七番 楠田 英世  
 三十八番 岩下 方平  
 三十九番 四條 隆譚  
 午前第十時十七分開場  
 ○議長 本日ハ議長不参ニ依リ本官代理ヲ爲シ第二百三十九號議案



○檢視會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ

書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第二十二號

福井縣管内裁判事務ノ儀金澤裁判所ニ屬セシメ候條此旨布告候

事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラシメ本案ニ不備不明若クハ舊法ニ抵

觸ノ厭ナシト思考スル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ハ異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ具

シ例ニ遵ヒ上奏スベシ

右訖テ第二百三十七號議按第二讀會ヲ開ク

元老院會議筆記明治十四年四月廿五日

○第二百四十號議按 硫黃無稅輸出ノ件 檢視會

○第二百四十一號議按 明治十四年郵便規則第百拾七節中改正ノ儀 檢視會

議長 東久世通禧 代理

出席議員

- 一番 伊集院兼寛
- 二番 大給 恒
- 三番 伊丹 重賢
- 四番 河田 景與
- 六番 河瀬 眞孝
- 九番 鶴田 皓

十番	水本 成美
十一番	渡邊 昇
十二番	海江田信義
十五番	柴原 和
十七番	安場 保和
二十番	箕作 麟祥
廿一番	神田 孝平
廿二番	津田 眞道
廿三番	林 友幸
廿四番	岩村 通俊
廿五番	大久保一翁

廿六番	渡邊 驥
廿七番	玉乃 世履
廿八番	中村 弘毅
廿九番	木田 親雄
三十番	細川潤次郎
三十一番	榎村 正直
三十三番	山口 尙芳
三十六番	黒田 清綱
三十七番	楠田 英世
三十九番	四條 隆壽

午前第十時二十分開場

○議長 本日正副議長ハ不參兩幹事ハ發言ノ都合ニ依リ本官代理ヲ爲シ第二百四十號及第二百四十一號議按ノ檢視會ヲ開ク

書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

明治十四年五月一日ヨリ硫黃無稅輸出差許候條此旨布告候事

但課稅ノ節ハ二ヶ月前ニ布告スヘキ事

○議長 發議ナキニ依リ決ヲ取ラシ本按ヲ不備不明若クハ舊法ニ抵觸ノ廉ナシト思考スル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ次按ニ移ルヘシ

書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

第貳拾三號

明治十四年郵便規則第貳百拾七節中左ノ通改正候條此旨布告候事

「六分ヲ七分貳厘」三分ヲ三分六厘五厘ヲ六厘

「六拾錢」ヲ七拾貳錢「三拾錢」ヲ三拾六錢「五錢」ヲ六錢

○議長 發議ナキニ依リ決ヲ取ラシ本按ヲ不備不明若クハ舊法ニ抵觸ノ廉ナシト思考スル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルニ依リ兩按共ニ異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シ例ニ從ヒ上奏スヘシ

具右訖第二頁二十七號議按第二讀會ノ續會アリ

○議長 全會一燈ヲ以テ對テ兩院共ニ異議ナク對テ議決スル旨ヲ  
全員悉數立

○議長 議決スル旨ヲ以テ對テ兩院共ニ異議ナク對テ議決スル旨ヲ  
全員悉數立

○議長 議決スル旨ヲ以テ對テ兩院共ニ異議ナク對テ議決スル旨ヲ  
全員悉數立

○議長 議決スル旨ヲ以テ對テ兩院共ニ異議ナク對テ議決スル旨ヲ  
全員悉數立

○議長 議決スル旨ヲ以テ對テ兩院共ニ異議ナク對テ議決スル旨ヲ  
全員悉數立

元老院會議筆記明治十四年五月二日 六番

○第二百四十二號議案 賣藥規則第十六條及第二檢視會  
十三條中刪除追加ノ件

議長 大木 喬任

出席議員 廿三番

一番 伊集院兼寛

二番 大給 恒

三番 伊丹 重賢

四番 河田 景與

六番 河瀬 眞孝

八番 福羽田美靜

九番 鶴田 皓